

授 業 要 綱

2025 年度（令和 7 年度）

作業療法学科 昼間部

専門学校 社会医学技術学院

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解》

科目名	基礎力養成講座										
担当者氏名	柴田真実										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										○
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										○
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

学生生活をスムーズに送るために学内ルール、学習方法、実習で求められることを理解し実施する。

《テキスト》

特に指定しない。

《参考図書》

適宜紹介する。

《目標行動(SBO)》

1. 学内ルールを理解する。
2. 学習スキルについて知り、自分に合った学習方法を見つける。
3. 実習場面で求められる態度・課題を理解し説明できる。

《学生の留意点》

15回の授業を学生生活のおくり方、学習方法、実習に関する事柄の3つの枠組みで構成します。いずれも3年間の学習を進めていくために必要な事柄です。学んだことを科目を問わず意識的に実践していくようにしてください。

《成績評価の方法》

課題（ワークシート、提出資料）70%
プレゼンテーション 30%で総合的に評価する

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士が担当し、その実務経験を基礎的スキルの習得に活かした授業としている。

《授業計画》

回	形式(教室)	担当者	テーマ	学習内容
1	演習	柴田	学習環境に慣れる	学習環境に慣れることを目的に3年間の学習概要を説明し、当該授業概要の説明の他、自己紹介や他己紹介などを行いクラスメイトとの交流を図ります。
2	演習	柴田	基礎力の確認	今後の学習の方策を考える資料とすることを目的に基礎力テストの実施します。
3	演習	柴田	学生生活の送り方①	学則調べを行い円滑な学生生活に備えます。
4	演習	柴田	学生生活の送り方②	学則調べを行い円滑な学生生活に備えます。また学生生活に必要な態度・行動をグループワークで検討し発表を行います。プレゼンテーション内容を評価します。
5	演習	柴田	学生生活の送り方③	作業療法士の仕事について調べた後、作業療法士に必要な態度についてグループワークで検討します。検討内容をワークシートに記入し提出します。提出されたワークシートを評価します。
6	演習	柴田	学習スキル① シラバスの使い方	シラバスを有効に活用するためにシラバスの見方について説明します。また、1・2年次シラバス（夜間のもの）を参照し学習順序をグループで検討することで3年間の学習課程を理解します。
7	演習	柴田	学習スキル② 読む力	学習又は仕事に必要な読む力について自己の得手不得手を理解し、読む力のスキルアップの方法についてグループで話し合います。
8	演習	柴田	学習スキル③ 聞く力	学習又は仕事に必要な聞く力について自己の得手不得手を理解し、聞く力のスキルアップの方法についてグループで話し合います。
9	演習	柴田	学習スキル④ 書く力	学習又は仕事に必要な書く力について自己の得手不得手を理解し、書く力のスキルアップの方法についてグループで話し合います。
10	演習	柴田	学習スキル⑤ 調べる力・プレゼンの仕方	必要な事柄の調べ方を知り、ツールを利用して調べてみます。調べたことを実際にパワーポイントで資料作成してみます。資料はクラスで閲覧できるよう共有します。提出された資料を評価します。
11	演習	柴田	実習準備① 実習概要とビジネスマナー	実習日程と内容を確認し、社会人として必要なビジネスマナー（挨拶）を練習します。
12	演習	柴田・外来講師	実習準備② ビジネスマナー	社会人として必要なビジネスマナーを外来講師の指導のもと練習します。
13	演習	柴田	実習準備③ 問題解決	学内・実習先で、困ったことが起こった時の対処方法として報告・連絡・相談の重要性と方法を知り練習します。また、真の問題解決についてグループで検討します。検討内容はワークシートに記入して提出します。ワークシートを評価します。
14	演習	柴田	実習準備④ 職業倫理 ハラスメント	職業倫理を確認し作業療法士に求められる態度と責務について理解します。また学習環境でのハラスメントについて検討し被害者・加害者にならないための方法を検討します。検討内容はワークシートに記入して提出します。ワークシートを評価します。
15	演習	柴田	実習準備⑤ 実習前オリエンテーション	臨床実習の目的・方法・課題を確認し、実習前の電話のかけ方・当日の注意事項等を確認し練習します。

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解》

科目名	情報社会と情報リテラシー										
担当者氏名	村上 知也、江川 賢一、柴田 真実										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

私たちの生活を取り巻く「情報社会」の現状を理解し、正しい情報収集の方法、統計学を用いた情報の吟味、情報セキュリティ、さらに情報を取り扱う上でのマナーについて理解すること。

《テキスト》

指定なし。

《参考図書》

必要に応じて提示する。

《目標行動(SBO)》

- 1)Google Classroomを利用できる。
- 2)現代社会での「情報」の意義を説明できる。
- 3)問題解決のための情報収集ができる。
- 4)統計学を用いて情報を吟味できる。
- 5)情報を取り扱う上でのセキュリティやマナーに配慮できる。

《学生の留意点》

情報社会の中で、医療分野へのデジタル技術の活用や進展が急速に拡大しています。本科目は、基本的な情報に関する知識から情報処理のための基本的統計学を習得し、専門分野へ応用することを目指した科目です。4回以降はオンデマンド型授業になります。

《成績評価の方法》

各回の課題で評価する（100％）。

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における中小企業診断士、スポーツ科学の研究者、理学療法士としての実務経験を授業内容に活かした科目としている。

《授業計画》

回	形式(教室)	担当者	テーマ	学習内容
1	演習	柴田	情報リテラシー①	Google Classroomの使い方①
2	演習	柴田	情報リテラシー②	Google Classroomの使い方②
3	演習	柴田	情報リテラシー③	Google Classroomの使い方③
4	オンデマンド	村上	情報力とは	情報力とは(村上)
5	オンデマンド	村上	数字を読む力～数字に騙されないために～	数字を読む力(村上)
6	オンデマンド	村上	今どきのIT①	AIの活用について～その他最近のデジタル活用(村上)
7	オンデマンド	村上	今どきのIT②	SNS, 情報マナー, セキュリティ等について(村上)
8	オンデマンド	村上	情報収集と整理力	アナログとデジタルでの収集, フレームワーク(村上)
9	オンデマンド	村上	思考力	思考法の種類と実践(村上)
10	オンデマンド	江川	統計学①	医療統計の基礎(江川)
11	オンデマンド	江川	統計学②	情報の整理: データの種類(江川)
12	オンデマンド	江川	統計学③	グラフの活用: 分布を調べる(江川)
13	オンデマンド	江川	統計学④	記述統計: 特徴をを明らかにする(江川)
14	オンデマンド	江川	統計学⑤	推測統計: 予測する(江川)
15	オンデマンド	江川	統計学⑥	検定と推定: データをよりよく理解する(江川)

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解》

科目名	人間発達学										
担当者氏名	松本 実祐										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

対象者の発達過程を考慮しながら対応できるようになるために、人の生得的な能力を知り、また代表的な領域ごとの各発達段階における特徴を学ぶ。

《テキスト》

授業の中で資料を配布します

《参考図書》

授業の中で資料を配布します

《目標行動(SBO)》

1. 人の発達段階の特徴について各領域に分け説明できる
2. 発達障害について説明できる
3. 各ライフステージにおける発達の特徴について説明できる

《学生の留意点》

積極的に授業に参加してください。

《成績評価の方法》

期末試験 100%

《実務経験のある教員による科目》

《授業計画》

回	形式(教室)	担当者	テーマ	学習内容
1	講義	松本	オリエンテーション 生涯発達	オリエンテーション 生涯発達
2	講義	松本	発達課題	発達課題
3	講義	松本	運動の発達	運動の発達
4	講義	松本	言語・感情	言語・感情
5	講義	松本	知覚・記憶	知覚・記憶
6	講義	松本	学習	学習
7	講義	松本	認知 ピアジェの認知発達理論	認知 ピアジェの認知発達理論
8	講義	松本	発達障害①	発達障害①
9	講義	松本	発達障害②	発達障害②
10	講義	松本	発達を見立てる	発達を見立てる
11	講義	松本	段階理論	フロイトの心理学的発達段階・マズローの欲求階層説・エリクソンの心理社会的発達段階理論
12	講義	松本	愛着	愛着
13	講義	松本	社会で生きるということ ①	乳幼児期～児童・青年期
14	講義	松本	社会で生きるということ ②	壮年・中年期
15	講義	松本	社会で生きるということ ③	老年期

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解》

科目名	医療コミュニケーション論										
担当者氏名	柴田 真実										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										○
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										○
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

コミュニケーションについての基本的知識を学ぶとともに自己理解を深め対人援助者としてのコミュニケーション能力を身につける。

《テキスト》

特に指定しない。

《参考図書》

山口美和：『PT・OTのためのこれで安心コミュニケーション実践ガイド第3版』。医学書院。2024

《目標行動(SBO)》

1. コミュニケーションとは何か説明できる
2. 対人援助者に求められるコミュニケーション能力について説明できる
3. 自分の長所と課題について表現できる

《学生の留意点》

コミュニケーションについて学ぶことは、自分自身について知る取り組みと言われます。自己の成長のために授業内の課題、グループワークなどには積極的に参加してください。

《成績評価の方法》

毎回の授業後に提出するワークシート100%

《実務経験のある教員による科目》

本科目は、作業療法士が担当し、その実務経験を活かした授業としている。

《授業計画》

回	形式(教室)	担当者	テーマ	学習内容
1	演習	柴田	医療職を目指すあなたへ	医療職の特性について知り、心身ともに健康な医療者として自分自身が成長するために必要な事柄について学びます。
2	演習	柴田	自分を知る	自分自身について理解するために、自己概念・自己肯定感について学ぶとともに性格診断を行い、対人援助者としての自己成長に必要な自身の課題を明確にします。
3	演習	柴田	他者から見た自分	他者から見た自分について知り、自己理解を深めるとともに、人によりよく知り合うための方法について具体的に学びます。
4	演習	柴田	自分の態度	「態度」について学び、いくつかの枠組みから自分自身の態度について考えるとともに、医療者として求められている態度について理解します。
5	演習	柴田	人間の心を理解する	「自我状態(交流分析理論)」について学び、私たちの心の構成要素に関する理解を深め、表情や態度、言動から「今ここ」における心の状態を理解する方法について具体的に学びます。
6	演習	柴田	対人コミュニケーション分析	対人コミュニケーションにおける3つの交流パターンについて理解し、対話からコミュニケーションを分析する方法を学びます。
7	演習	柴田	人間関係の基本「ストローク」	「ストローク(存在認知)」について理解し、医療者として健全で良好な対人コミュニケーションを実践するために必要なストロークの活用方法を学びます。
8	演習	柴田	コミュニケーションの基本的知識	コミュニケーションの種類(言語・準言語・非言語)について学び、それぞれの理解を深めるとともに、コミュニケーション能力とは何かを知り、その向上のために必要な自身の課題を明確にします。
9	演習	柴田	相手を知るための観察のしかた	「みる」とはどのような事か考えるとともに、医療専門家として何をどのようにみることができなければならないのかを学びます。
10	演習	柴田	よい聴き手になるための聴き方	「きく」とはどのようなことなのか、そして良い聴き手になるために必要なことは何かを、体験を通して学びます。
11	演習	柴田	伝わる伝えかた	「伝える」とはどのようなことか、自分の伝える力にはどこに課題があるのか、伝わる伝えかたとはどういうことなのか、体験を踏まえながら学びます。
12	演習	柴田	自分も相手も大切にしたい伝えかた	言いにくいことであっても相手を傷つけないように伝える方法、自分も相手も大切にしたい自己主張について学びます。
13	演習	柴田	自己管理①(時間管理と健康管理)	自己管理に大切な時間管理と健康管理について学び、自分自身の状況について確認し、課題と具体的な取り組み方法を明確にします。
14	演習	柴田	自己管理②(感情管理)	私たちが生きていくうえで大切な感情について知り、中でも重要な「怒りのコントロールのしかた」について学びます。
15	演習	柴田	自己存在と自己実現	自己存在への意識について考えるとともに、自分の将来を具体的に描いてみることに取り組みます。

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解》

科目名	生命倫理学									
担当者氏名	柴田 真実									
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期 後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1	人を一個人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人								
	DP2	対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人								○
	DP3	他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人								
	DP4	専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人								

《一般教育目標(GIO)》

臨床現場で出会う倫理問題について検討できるようになるために倫理についての基礎知識を身につける。

《テキスト》

指定なし。

《参考図書》

必要に応じて提示する。

《目標行動(SBO)》

1. 医療における倫理問題の具体例を挙げられる。
2. 倫理問題を考える上での基本的考え方を説明できる。
3. 手順に従って倫理問題を検討することができる。
4. 建設的なディスカッションを行い、結果を記述できる。

《学生の留意点》

多様な回答が存在する課題について他者とディスカッションする機会が多くあります。自分の考えを伝え他者の意見に耳を傾ける姿勢を大切に建設的かつ論理的なディスカッションができるよう努力してください。

《成績評価の方法》

ワークシート100%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における作業療法士としての実務経験を、医療倫理・生命倫理という観点から授業内容にいかした科目としている。

《授業計画》

回	形式(教室)	担当者	テーマ	学習内容
1	演習	柴田	オリエンテーション 倫理とは何か	身近な倫理問題についてディスカッションを行い倫理問題について考えることを経験します。授業の後半では倫理の定義を確認し、医療現場で生じる倫理問題について予測します。ディスカッション内容はワークシートに記入し提出して下さい。ワークシートの内容を評価します。
2	演習	柴田	倫理で扱うことがら ～生命倫理と医療倫理～	生命倫理と医療倫理の違いやその歴史について説明します。また、具体的な倫理問題についてディスカッションを行い、どのような場合に倫理が問題となるのか理解します。講義及びディスカッション内容はワークシートに記入し提出して下さい。ワークシートの内容を評価します。
3	演習	柴田	倫理を考える上での基礎知識 ～倫理理論・帰結主義～	倫理問題を考えるにあたっての基本的考え方として、倫理理論と帰結主義について具体的事例を示して説明します。講義内容はワークシートに記入し提出して下さい。ワークシートの内容を評価します。
4	演習	柴田	倫理を考える上での基礎知識 ～義務理論・徳理論～	倫理問題を考えるにあたっての基本的考え方として、義務論と特理論について具体的事例を示して説明します。講義内容はワークシートに記入し提出して下さい。ワークシートの内容を評価します。
5	演習	柴田	倫理を考える上での基礎知識 ～医療の4原則～	医療の場面の倫理問題を考える際に用いられる医療の4原則及び倫理的ジレンマについて説明します。講義内容はワークシートに記入し提出して下さい。ワークシートの内容を評価します。
6	演習	柴田	具体的解決のために 原則論	倫理問題を考える手法として原則論について学び、具体的事例について検討します。講義内容と検討事項はワークシートに記入して提出してください。ワークシートの内容を評価します。
7	演習	柴田	具体的解決のために 手順論	倫理問題を考える手法として手順論について学び、具体的事例について検討します。講義内容と検討事項はワークシートに記入して提出してください。ワークシートの内容を評価します。
8	演習	柴田	具体的解決のために 物語論	倫理問題を考える手法として物語論について学び、具体的事例について検討します。講義内容と検討事項はワークシートに記入して提出してください。ワークシートの内容を評価します。
9	演習	柴田	医療倫理の変遷と具体的課題	古代から現代までの医療倫理の変遷について説明します。脳死と臓器移植の倫理問題についてグループで考えます。講義及びディスカッション内容はワークシートに記入し提出して下さい。ワークシートの内容を評価します。
10	演習	柴田	医療倫理の変遷と具体的課題	古代から現代までの医療倫理の変遷について説明します。尊厳死の倫理問題についてグループで考えます。講義及びディスカッション内容はワークシートに記入し提出して下さい。ワークシートの内容を評価します。
11	演習	柴田	医療倫理の変遷と具体的課題	古代から現代までの医療倫理の変遷について説明します。医療資源の倫理問題についてグループで考えます。講義及びディスカッション内容はワークシートに記入し提出して下さい。ワークシートの内容を評価します。
12	演習	柴田	医療倫理の変遷と具体的課題	古代から現代までの医療倫理の変遷について説明します。告知についての倫理問題についてグループで考えます。講義及びディスカッション内容はワークシートに記入し提出して下さい。ワークシートの内容を評価します。
13	演習	柴田	多様性という考え方	昨今よく言われる多様性という言葉についてその意味や背景をグループで調べ発表用の資料を作成します。資料はクラス内で閲覧ができるよう共有します。発表用資料の内容を評価します。
14	演習	柴田	信念対立という考え方	個人の持つ信念どうしが対立する場合の解決方法として信念対立という考え方を紹介します。身の回りの信念対立に気が付き、うまく解決する方法を考えてみます。講義及びディスカッション内容はワークシートに記入し提出して下さい。ワークシートの内容を評価します。
15	演習	柴田	職業倫理 ～作業療法士倫理綱領～	作業療法士の職業倫理綱領の内容を確認し臨床現場で求められる対応を具体的に検討します。討内容についてワークシートに記入し提出して下さい。ワークシートの内容を評価します。

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解》

科目名	現代社会と社会保障									
担当者氏名	渋川 智明									
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1	人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人								
	DP2	対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人								○
	DP3	他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人								
	DP4	専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人								

《一般教育目標(GIO)》

社会保障制度を構成する公的扶助、福祉、社会保険制度などの政策理念、機能など具体的施策の内容を理解するために、現代社会の少子高齢化や財政的課題について、英国など先進諸国制度とも比較・検証し、安定的な制度設計を考察する。

《テキスト》

棕野美智子・田中耕太郎：『はじめての社会保障～福祉を学ぶ人へ』。有斐閣アルマ。2024年（第21版）

《参考図書》

必要に応じて提示する。

《目標行動(SBO)》

- 1) 社会保障制度の柱である介護・医療保険・年金・雇用保険などの保険制度の枠組みを説明できる。
- 2) 公的扶助、児童福祉、障害福祉の制度設計の基礎になっている財政（税）と社会保険制度（保険料プラス税）の基盤的相違、現状を説明できる。
- 3) 地域包括ケアシステムを理解し、医療と介護の連携、直面している課題・問題を説明できる。

《学生の留意点》

テーマ内容について、テキスト、参考書及び関連資料・文献等を基に事前学習をする調査・分析作業を導入します。

《成績評価の方法》

提出課題 100%

最終講義で課すレポートを中心に評価、1～14回の課題も評価の対象とします。

《実務経験のある教員による科目》

本科目は、社会保障制度に熟知した講師が担当し、その実務経験を生かした講義内容としている。

《授業計画》

回	形式（教室）	担当者	テーマ	学習内容
1	演習	渋川	ガイダンスー社会保障制度とは	欧米の現行社会保障制度の現状の中で、日本の社会保障制度の位置づけと、提供するサービスがどのように機能し、またどのような課題を抱えているのかを概説する。
2	演習	渋川	社会保障の概念整理	サービスの形態と社会のセーフティネットとしての社会保障の役割、日本国憲法、基本的人権に基づく扶助、社会福祉と社会保険の理論と定義の概念整理。
3	演習	渋川	社会保障の歴史	エリザベス1世の救貧論から産業革命を経てドイツの社会保険論へ、日本の社会保障における慈善、社会事業家論からナショナルミニマム、戦後の国民皆保険論まで。
4	演習	渋川	社会福祉①扶助	扶助（生活保護）、児童、母子、高齢者福祉。
5	演習	渋川	社会福祉②障害福祉	障害者総合支援制度と障害程度区分の導入、3障害の一体的支援。
6	演習	渋川	社会福祉③障害福祉	在宅、施設サービスの多様化と自立支援。措置制度による提供サービスから契約制度への移行と就労支援。
7	演習	渋川	公的医療保険制度①制度の概要	国民健康保険制度と被用者保険制度、保険者と被保険者の概念整理。償還払い制度と診療報酬、給付と自己負担。
8	演習	渋川	公的医療保険制度②保険給付	保険適用の医療保険給付サービスと、保険外自由診療、混合診療。
9	演習	渋川	公的医療保険制度③医療提供体制	診療所と病院の機能分化と体系化。
10	演習	渋川	公的医療保険制度と公的介護保険制度の連携	カルテ開示、インフォームドコンセント、セカンドオピニオン。訪問看護・リハビリ医療と介護の連携、地域包括ケア。
11	演習	渋川	公的介護保険制度①制度概要	保険者と被保険者の保険料。要介護認定制度、財政基盤の課題。
12	演習	渋川	公的介護保険制度②保険給付	施設・在宅、地域密着型介護保険給付サービスと、要支援者の総合支援。提供体制・事業者。
13	演習	渋川	公的年金制度①制度概要	保険者と被保険者。国民年金、厚生年金の仕組み。基礎年金の保険料と公費拠出。強制加入と猶予・免除制度。
14	演習	渋川	公的年金制度②老齢年金	老齢年金の支給開始と繰り上げ・繰り下げ支給、障害年金、遺族年金、給付と負担のバランスと賦課方式の課題。
15	演習	渋川	雇用保険、労働災害者保険とまとめ	派遣、非正規雇用と保険・補償。まとめとして、日本の社会保障制度の制度改革論争の検証。社会保障の安定的かつ持続的運営システムに関する提言と今後の展望。以上。

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	解剖学Ⅰa										
担当者氏名	吉本 正美										
授業方法	講義・演習	単位数	3	回数	30	時間数	60	開講年次	1	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(G10)》

人体の正常な形態、構造および機能を理解するために、解剖学総論で解剖学記載上のきまりや人体の区分などを学び、人体の一般的な正常な構造のうち、骨格系と筋系を学修する。

《テキスト》

・野村 峻（編集）：解剖学，第6版（標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野），医学書院，2024年。

《参考図書》

・W. Platzer, 他著，平田幸男訳：解剖学アトラス，第10版，文光堂，2012年。
・坂井建雄・松村謙児（監訳）：プロメテウス解剖学アトラス，解剖学総論/運動器系，医学書院，2016年。
・伊藤隆（原著）・高野廣子（改訂）：解剖学講義，改訂3版，南山堂，2012年。
・R. L. Drake, A. W. Vogl, A. W. M. Mitchell（著），秋田恵一（翻訳）：グレイ解剖学，原著第5版，エルゼビア・ジャパン，人体の正確な解剖学の知識を学ぶために，授業を受けた日に復習するようにし，その日に復習できない場合は，少なくとも次の授業までには必ず復習することを心掛ける。

《目標行動(SB0)》

1. 人体の基本的な主要な区分，軸および断面を説明できる。
2. 全身を構成する骨格系の骨の種類と構造，発生と成長について説明できる。
3. 全身を構成する骨の連結の種類と構造および付属装置について説明できる。
4. 全身を構成する筋系の骨格筋の名称，付着部（起始，停止），作用，支配神経および分布する主な血管を説明できる。

《成績評価の方法》

中間試験および期末試験を筆記試験により実施し，評価割合をそれぞれ50%として評価基準に基づいて評価する。

《実務経験のある教員による科目》

解剖学教室の外來講師による講義形式で実施する。

《授業計画》

回	形式（教室）	担当者	テーマ	学習内容
1	講義	吉本	解剖学総論（1）	解剖学用語（解剖学的位置，人体の軸と方向），人体の区分と構成
2	講義	吉本	解剖学総論（2）	人体の構成：細胞，組織，器官，器官系，個体
3	講義	吉本	骨格系：骨格系総論	骨の形態・構造・機能，骨の発生と成長，骨の連結
4	講義	吉本	(1) 骨格系各論	体幹の骨（脊柱，胸郭）
5	講義	吉本	(2) 骨格系各論	上肢の骨（上肢帯，自由上肢骨，上肢の骨の連結）
6	講義	吉本	(3) 骨格系各論	頭蓋の骨
7	講義	吉本	(4) 骨格系各論	下肢の骨（下肢帯，自由下肢骨，下肢の骨の連結）
8	講義	吉本	(5) 骨格系各論	下肢の骨，骨盤
9	講義	吉本	筋系：筋系総論（1）	筋（骨格筋）の分類と作用，筋（骨格筋）の補助装置
10	講義	吉本	筋系総論（2）	筋（骨格筋）の支配神経と血管系
11	講義	吉本	筋系総論（3）	筋（骨格筋）の支配神経と血管系
12	講義	吉本	筋系各論（1）	頭頸部の筋
13	講義	吉本	筋系各論（2）	頭頸部の筋
14	講義	吉本	筋系各論（3）	体幹の筋
15	講義	吉本	筋系各論（4）	体幹の筋
16	講義	吉本	筋系各論（5）	体幹の筋
17	講義	吉本	筋系各論（6）	上肢の筋
18	講義	吉本	筋系各論（7）	上肢の筋
19	講義	吉本	筋系各論（8）	上肢の筋
20	講義	吉本	筋系各論（9）	下肢の筋
21	講義	吉本	筋系各論（10）	下肢の筋
22	講義	吉本	筋系各論（11）	下肢の筋
23	講義	吉本	骨格系（1）	体幹の骨（脊柱，胸郭）
24	講義	吉本	骨格系（2）	体幹の骨（脊柱，胸郭）
25	講義	吉本	骨格系（3）	頭蓋の骨
26	講義	吉本	骨格系（4）	上肢の骨（上肢帯，自由上肢骨）
27	講義	吉本	骨格系（5）	上肢の骨（上肢帯，自由上肢骨）
28	講義	吉本	骨格系（6）	下肢の骨（下肢帯，自由下肢骨）
29	講義	吉本	骨格系（7）	下肢の骨（下肢帯，自由下肢骨），骨盤
30	講義	吉本	骨格系（8）	復習

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	解剖学 I b										
担当者氏名	吉本 正美										
授業方法	講義・演習	単位数	3	回数	30	時間数	60	開講年次	1	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		DP1	人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人								
		DP2	対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人								○
		DP3	他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人								
		DP4	専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人								

《一般教育目標(GIO)》

人体の正常な形態、構造および機能を理解するために、人体を構成する構造のうち、内臓器系の消化器系、循環器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系および内分泌系と感覚器系を学修する。

《目標行動(SBO)》

1. 体幹、下肢の筋について説明できる
2. 内臓全般（消化器、循環器、呼吸器、泌尿器、生殖器、感覚器）の構造と配置について説明できる

《成績評価の方法》

中間試験および期末試験を筆記試験により実施し、評価割合をそれぞれ50%として評価基準に基づいて評価する。

《テキスト》

・野村 雄（編集）：解剖学，第6版（標準理学療法学・作業療法学

専門基礎分野），医学書院，2024年。

《参考図書》

・W. Platzer, 他著，平田幸男訳：解剖学アトラス，第10版，文光堂，2012年。

・坂井建雄，松村諒児（監訳）：プロメテウス解剖学アトラス，解剖学総論/運動器系，医学書院，2016年。

・伊藤隆（原著），高野廣子（改訂）：解剖学講義，改訂3版，南山堂，2012年。

・R. L. Drake, A. W. Vogl, A. W. M. Mitchell（著），秋田恵一（翻訳）：グレイ解剖学，原著第5版，エルゼビア・ジャパン，2024年。

《学生の留意点》

人体の正確な解剖学の知識を学ぶために、授業を受けた日に復習するようにし、その日に復習できない場合は、少なくとも次の授業までには必ず復習することを心掛ける。

《実務経験のある教員による科目》

解剖学教室の外來講師による講義形式で実施する。

《授業計画》

回	形式（教室）	担当者	テーマ	学習内容
1	講義	吉本	内臓器系総論（1）	内臓器系の一般的構造と体内における配置
2	講義	吉本	内臓器系総論（2）	内臓器系の一般的構造と体内における配置
3	講義	吉本	内臓器系各論（1）	消化器系（中空性器官）
4	講義	吉本	内臓器系各論（2）	消化器系（中空性器官）
5	講義	吉本	内臓器系各論（3）	消化器系（実質性器官：付属腺）
6	講義	吉本	内臓器系各論（4）	消化器系（実質性器官：付属腺）
7	講義	吉本	内臓器系各論（5）	消化器系（実質性器官：付属腺、膵臓）
8	講義	吉本	内臓器系各論（6）	循環器系（心臓、動脈系と静脈系）
9	講義	吉本	内臓器系各論（7）	循環器系（動脈系と静脈系）
10	講義	吉本	内臓器系各論（8）	循環器系（動脈系と静脈系、胎生期の循環系）
11	講義	吉本	内臓器系各論（9）	循環器系（リンパ系）
12	講義	吉本	内臓器系各論（10）	呼吸器系
13	講義	吉本	内臓器系各論（11）	呼吸器系
14	講義	吉本	内臓器系各論（12）	呼吸器系
15	講義	吉本	内臓器系各論（13）	泌尿器系
16	講義	吉本	内臓器系各論（14）	泌尿器系
17	講義	吉本	内臓器系各論（15）	男性生殖器
18	講義	吉本	内臓器系各論（16）	男性生殖器
19	講義	吉本	内臓器系各論（17）	女性生殖器
20	講義	吉本	内臓器系各論（18）	女性生殖器
21	講義	吉本	内臓器系各論（19）	人体の発生（胚子の発生、器官系の発生）
22	講義	吉本	内臓器系各論（20）	復習
23	講義	吉本	内臓器系各論（21）	内分泌系
24	講義	吉本	内臓器系各論（22）	内分泌系
25	講義	吉本	内臓器系各論（23）	内分泌系
26	講義	吉本	感覚器系（1）	感覚器系（眼：視覚器，耳：平衡聴覚器）
27	講義	吉本	感覚器系（2）	感覚器系（眼：視覚器，耳：平衡聴覚器）
28	講義	吉本	感覚器系（3）	感覚器系（味覚器，嗅覚器，皮膚と深部感覚の感覚受容器）
29	講義	吉本	感覚器系（4）	感覚器系（味覚器，嗅覚器，皮膚と深部感覚の感覚受容器）
30	講義	吉本	内臓器系，感覚器系	復習

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	解剖学Ⅱa										
担当者氏名	彦坂 和雄										
授業方法	講義・演習	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

人体の正常な形態とその形成過程及び機能的意義について理解を深めるために、神経系について学ぶ。

《テキスト》

野村巖 編著：『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学、第6版』、医学書院、2024年。

《参考図書》

W.Platzer, 他著, 平田幸男訳：『解剖学アトラス』第10版, 文光堂, 2012年。

《目標行動(SBO)》

1. 神経系についての解剖学用語を説明できる。
2. 末梢神経系の基本構造と名称を、機能と関連付けて説明できる。
3. 中枢神経系の基本構造と部位名を機能と関連付けて説明できる。
4. 主な神経路について、その線維連絡と機能の概要を説明できる。
5. 神経系の断層解剖の概略を説明できる。
6. 神経系の表層解剖の概要を説明できる。

《学生の留意点》

学名（和名）を正確に書けること。脳などの三次元（立体）的構造を把握すること。

《成績評価の方法》

期末試験70%, 小テスト30%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における神経科学分野の講師としての実務経験を生かした科目としている

《授業計画》

回	形式（教室）	担当者	テーマ	学習内容
1	講義	彦坂	神経系概論	神経系の区分、神経系の構成と組織学、髄膜と脳室系、神経系の発生
2	講義	彦坂	中枢神経系-1	脊髄：脊髄（外形と断面）、脳幹（延髄、橋、中脳、網様体）
3	講義	彦坂	中枢神経系-2	小脳（外形と区分、小脳脚、内部構造）、大脳（間脳、終脳）
4	講義	彦坂	中枢神経系-3	上行性神経路・下行性神経路
5	講義	彦坂	末梢神経-1	脊髄神経 1（頸神経、頸神経叢、腕神経叢）
6	講義	彦坂	末梢神経-2	脊髄神経 2（胸神経、腰神経、腰神経叢、仙骨神経、仙骨神経叢、尾骨神経叢）
7	講義	彦坂	脳神経-1	嗅神経、視神経、三叉神経
8	講義	彦坂	脳神経-2	動眼神経、滑車神経、外転神経
9	講義	彦坂	脳神経-3	顔面神経、内耳神経
10	講義	彦坂	脳神経-4	舌咽神経、迷走神経
11	講義	彦坂	脳神経-5	副神経、舌下神経、脳神経復習
12	講義	彦坂	自律神経	交感神経、副交感神経、腸壁内神経系
13	講義	彦坂	中枢神経系・末梢神経の障害-1	脳血管障害、外傷性中枢神経障害、脱髄性疾患
14	講義	彦坂	中枢神経系・末梢神経の障害-2	変性疾患、脳腫瘍、脳性麻痺、末梢神経障害・ニューロパシー
15	講義	彦坂	まとめ	

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	解剖学Ⅱb										
担当者氏名	彦坂 和雄										
授業方法	講義・演習	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》
人体の正常な形態とその形成過程及び機能的意義について理解を深めるために、脈管系について学ぶ。

《テキスト》
野村 嶺 編著：『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学、第6版』、医学書院、2024年。

《参考図書》
・W. Platzner 他 著、平田幸男 訳：『解剖学アトラス』第10版、文光堂、2012年。

- 《目標行動(SBO)》
1. 脈管系についての解剖学用語を説明できる。
 2. 心臓の基本構造と機能の概要について説明できる。
 3. 全身の主な脈管の名称と走行の概要を説明できる。
 4. 脈管と神経の局所解剖の概要について説明できる。
 5. 脈管系の断層・表層解剖の概要について説明できる。

《学生の留意点》
学名（和名）を正確に書けること。動脈、静脈、リンパ系の分布について、三次元（立体）的に把握すること。

《成績評価の方法》
期末試験70%、小テスト30%

《実務経験のある教員による科目》
当該分野における神経科学分野の講師としての実務経験を生かした科目としている

《授業計画》

回	形式（教室）	担当者	テーマ	学習内容
1	講義	彦坂	脈管系概論	脈管系の組織学、血液循環とリンパ循環、胎生期の血液循環、血液循環の切り替え
2	講義	彦坂	心臓	外形、内部構造、冠循環、刺激伝導系
3	講義	彦坂	動脈系-1	胸腹部、骨盤の動脈
4	講義	彦坂	動脈系-2	胸腹部、腰部、骨盤、大腿、下腿の動脈
5	講義	彦坂	動脈系-3	腰部、大腿、下腿の動脈
6	講義	彦坂	静脈系-1	大静脈系と皮静脈系
7	講義	彦坂	静脈系-2	奇静脈系と門脈系
8	講義	彦坂	特徴的な血管系	脳に分布する静脈系、腎臓、肝臓、下垂体門脈系、腸間膜
9	講義	彦坂	リンパ系	リンパ管、リンパ節およびリンパ系器官、リンパ系の構造的特徴
10	講義	彦坂	局所解剖学からみた血管-1	神経および他の構造との関連、頭頂部
11	講義	彦坂	局所解剖学からみた血管-2	神経および他の構造との関連、上肢
12	講義	彦坂	局所解剖学からみた血管-3	神経および他の構造との関連、体幹
13	講義	彦坂	局所解剖学からみた血管-4	神経および他の構造との関連、下肢
14	講義	彦坂	作業療法との関連事項	循環器系障害とのかかわり
15	講義	彦坂	復習	

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	生理学 I a										
担当者氏名	彦坂 和雄										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

正常な生体機能がどのような機序で発現し、維持されているかについて理解を深めるため、「膜電位の発生机序」、「神経細胞の働き」、「体内での情報伝達機能」、「身体を動かす際の中樞神経の働き（生理）及び末梢神経と効果器（筋）の働き」について学ぶ。また、基本的なリハビリテーション医学の解釈に必要な基礎的知識を修得する。

《テキスト》

大地 陸男：『生理学テキスト 第9版』、文光堂、2022

《参考図書》

中島雅美：『理学療法士・作業療法士PT・OT基礎から学ぶ生理学ノート 第3版』、医歯薬出版、2017
他適宜紹介

《目標行動(SBO)》

1. 神経筋機能について電気特性と物質特性から説明できる。
2. 筋の機能について電気特性と物質特性から説明できる。
3. 身体を動かす際の中樞神経の働き（生理）について説明できる。
4. 身体を動かす際の末梢神経と効果器（筋）の働き（生理）について関係づけることができる。

《学生の留意点》

授業時間のみでは理解は深まりません。自分に適した自己学習方法を見つけ、積極的に予習・復習を行う習慣を身につけましょう。生理学は解剖学とならんで医療従事者にとって必須の科目であり、臨床医学を学ぶ上での土台となります。また国家試験でも幅広く深い知識が問われます。そのことを意識して授業に臨んで下さい。

《成績評価の方法》

期末試験70%、小テスト30%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における神経科学分野の講師としての実務経験を生かした科目としている

《授業計画》

回	形式(教室)	担当者	テーマ	学習内容
1	講義	彦坂	概論	生理学概論, 神経生理学概論
2	講義	彦坂	細胞機能の基礎-1	細胞の環境, 構造・機能調節
3	講義	彦坂	細胞機能の基礎-2	細胞膜を通過する物質移動, 膜電位
4	講義	彦坂	活動電位, イオンチャネル	興奮発生, イオンチャネルの機能と構造
5	講義	彦坂	神経の基本・興奮伝導について	神経線維の構造, 跳躍伝導, 興奮伝導の特徴, 神経線維の種類
6	講義	彦坂	骨格筋について-1	筋の基本的構造, 筋節, 筋フィラメント, 調節タンパク質
7	講義	彦坂	骨格筋について-2	Ca ²⁺ による筋の収縮
8	講義	彦坂	興奮伝達と抑制	興奮の伝達と抑制, シナプスについて, 神経筋伝達, 神経筋接合部の伝達
9	講義	彦坂	自律神経系	自律神経系の構造と作用, 受容体
10	講義	彦坂	運動系-1	脊髄について
11	講義	彦坂	運動系-2	脳幹・小脳について
12	講義	彦坂	運動系-3	大脳基底核について
13	講義	彦坂	運動系-4	大脳皮質について
14	講義	彦坂	運動系-5	運動系の復習
15	講義	彦坂	復習	

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	生理学 I b										
担当者氏名	彦坂 和雄										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

正常な生体機能がどのような機序で発現し、維持されているかについて理解を深めるために「感覚機能および脳の統合機能が関与する生命機能」について学ぶ。また、基本的なリハビリテーション医学の解釈に必要な基礎的知識を修得する。

《テキスト》

大地 陸男：『生理学テキスト 第9版』，文光堂，2022年。

《参考図書》

中島雅美：『理学療法士・作業療法士PT・OT基礎から学ぶ 生理学ノート 第3版』，2017年。

《目標行動(SBO)》

1. 感覚機能の点からヒトの生命機能を説明できる。
2. 脳の統合機能の点から人の生命機能を説明できる。

《学生の留意点》

授業時間のみでは理解は深まりません。自分に適した自己学習方法を見つけ、積極的に予習・復習を行う習慣を身につけましょう。生理学は解剖学とならんで医療従事者にとって必須の科目であり、臨床医学を学ぶ上での土台となります。また国家試験でも幅広く深い知識が問われます。そのことを意識して授業に臨んで下さい。

《成績評価の方法》

期末試験70%，小テスト30%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における神経科学分野の講師としての実務経験を生かした科目としている

《授業計画》

回	形式(教室)	担当者	テーマ	学習内容
1	講義	彦坂	感覚生理学総論	感覚系神経システムの理解
2	講義	彦坂	体性感覚-1	体性感覚と受容器
3	講義	彦坂	体性感覚-2	体性感覚の伝導路・中継核、大脳皮質の体性感覚野
4	講義	彦坂	味覚、嗅覚	味覚(味覚系、嚥下)、嗅覚
5	講義	彦坂	聴覚	音の性質と聴力、伝音機構、内耳の音受容、聴覚の中核
6	講義	彦坂	前庭感覚	前庭器官の構造と機能、前庭系の神経回路
7	講義	彦坂	視覚-1	眼球の光学系、網膜の光受容(錐体と杆体)
8	講義	彦坂	視覚-2	感覚としての視覚、眼球運動
9	講義	彦坂	感覚器	感覚まとめ
10	講義	彦坂	脳の統合機能-1	大脳皮質の構造と機能
11	講義	彦坂	脳の統合機能-2	高次脳の機能
12	講義	彦坂	脳の統合機能-3	大脳辺縁系と視床下部
13	講義	彦坂	脳の統合機能-4	情動、行動を調節する伝達物質
14	講義	彦坂	脳の統合機能-5	脳波、覚醒と睡眠、学習
15	講義	彦坂	復習	

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	生理学Ⅱa										
担当者氏名	彦坂 和雄										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

生理学は臨床医学各分野の基幹となる学問領域である。
生理学は人体の正常な恒常性の機序及び機能的意義について理解を深めるために、人体の各種臓器の機能、役割について学び、合目的性として生体恒常性の機序を理解するもので、臨床医学への出発点となるものである。

《テキスト》

大地 陸男：『生理学テキスト 第9版』。文光堂、2022年。

《参考図書》

中島雅美：『理学療法士・作業療法士PT・OT基礎から学ぶ 生理学ノート 第3版』。2017年。

《目標行動(SBO)》

1. 体液、血液の役割と機序を説明できる。
2. 心臓、血管の循環系の役割と機序を説明できる。
3. 生体防御機構免疫系の役割と機序を説明できる。
4. 呼吸・酸塩基平衡の役割と機序を説明できる。
5. 体温調節と生体リズムの役割と機序を説明できる。

《学生の留意点》

授業時間のみでは理解は深まりません。自分に適した自己学習方法を見つけ、積極的に予習・復習を行う習慣を身につけましょう。生理学は解剖学とならんで医療従事者にとって必須の科目であり、臨床医学を学ぶ上での土台となります。また国家試験でも幅広く深い知識が問われます。そのことを意識して授業に臨んで下さい。

《成績評価の方法》

期末試験70%、小テスト30%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における神経科学分野の講師としての実務経験を生かした科目としている

《授業計画》

回	形式(教室)	担当者	テーマ	学習内容
1	講義	彦坂	体液	生命現象の本態、ホメオスタシス、体液の役割、体液の組成、ミネラルの働き、浮腫、脱水
2	講義	彦坂	血液-1	血液の成分と機能、血液の物理化学的特性、血液の成分、造血と造血因子
3	講義	彦坂	血液-2	赤血球の形状と機能、赤血球の新生と破壊、ヘモグロビンの働き、貧血
4	講義	彦坂	血液-3	白血球、血小板、血漿の形状と機能血液凝固作用、血小板血栓、二次血液凝固
5	講義	彦坂	血液-4	ABO式血液型、RH式血液型赤血球の凝集反応、凝集原(抗原)凝集素(抗体)
6	講義	彦坂	免疫	非特異的防御機構、特異的防御機構、免疫機構、リンパの働き、アレルギー
7	講義	彦坂	循環	体循環、肺循環、心臓の構造と機能、心筋の特性、刺激伝導系
8	講義	彦坂	心臓	心周期、心音、心拍数の調整、心臓の神経支配、心筋の電気現象と心電図
9	講義	彦坂	血管-1	動脈・静脈・毛細血管の特徴、静脈還流、冠状循環、脳循環、腹腔内循環
10	講義	彦坂	血管-2	血圧、微小循環、血管平滑筋、循環調節(ホルモン、局所的因子)、神経系調節、リンパ管の構造と機能
11	講義	彦坂	呼吸-1	換気の仕組み、気道、肺の構造と機能、呼吸筋と呼吸運動、肺胞換気量
12	講義	彦坂	呼吸-2	肺におけるガス交換、酸素・二酸化炭素の運搬、呼吸による体液の酸塩基平衡
13	講義	彦坂	呼吸-3	呼吸に影響を与える要因、呼吸調節作用、呼吸中枢、特殊環境の呼吸への影響
14	講義	彦坂	体温	体温の調節、体熱の産生、基礎代謝、体温の放散、体温調節中枢、日内変動
15	講義	彦坂	復習	

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	生理学Ⅱb										
担当者氏名	彦坂 和雄										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

生理学は臨床医学各分野の基幹となる学問領域である。
生理学は人体の正常な恒常性の機序及び機能的意義について理解を深めるために、人体の各種臓器の機能、役割について学び、合目的性として生体恒常性の機序を理解するもので、臨床医学への出発点となるものである。

《テキスト》

大地 陸男：『生理学テキスト 第9版』。文光堂、2022年。

《参考図書》

中島雅美：『理学療法士・作業療法士PT・OT基礎から学ぶ 生理学ノート 第3版』。2017年。

《目標行動(SBO)》

1. 消化・吸収の役割と機序を説明できる。
2. 栄養とエネルギーの役割と機序を説明できる。
3. 泌尿器系の役割と機序を説明できる。
4. 内分泌系の役割と機序を説明できる。
5. 生殖器系の役割と機序を説明できる。
6. 成長と老化の生理作用とその機序を説明できる。

《学生の留意点》

授業時間のみでは理解は深まりません。自分に適した自己学習方法を見つけ、積極的に予習・復習を行う習慣を身につけましょう。生理学は解剖学とならんで医療従事者にとって必須の科目であり、臨床医学を学ぶ上での土台となります。また国家試験でも幅広く深い知識が問われます。そのことを意識して授業に臨んで下さい。

《成績評価の方法》

期末試験70%、小テスト30%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における神経科学分野の講師としての実務経験を生かした科目としている

《授業計画》

回	形式(教室)	担当者	テーマ	学習内容
1	講義	彦坂	消化-1	口腔内消化、咀嚼・嚥下、唾液による消化、胃内消化、消化液の分泌作用
2	講義	彦坂	消化-2	小腸の構造と機能、小腸壁の構造、小腸の運動、小腸における消化
3	講義	彦坂	吸収	栄養素の分解と吸収、肝臓の構造と機能、膵臓の構造と機能、胆のう・胆道の機能
4	講義	彦坂	排便	大腸の構造と機能、大腸の運動と分泌、胃大腸反射、排便中枢、肛門括約筋の作用
5	講義	彦坂	代謝	物質代謝、炭水化物代謝、糖質代謝、タンパク質代謝、核酸代謝、ビタミン代謝
6	講義	彦坂	腎臓-1	腎臓の構造と機能、ネフロン構造、糸球体濾過、尿管の働き、再吸収と分泌
7	講義	彦坂	腎臓-2	腎機能の測定、腎血流量、腎血流量と糸球体濾過量、腎クリアランス
8	講義	彦坂	排尿	尿管・膀胱・尿道の構造と機能、膀胱と尿道の神経支配、蓄尿、排尿反射
9	講義	彦坂	復習1-8	
10	講義	彦坂	内分泌-1	ホルモンの化学的性質、ホルモンの受容器、ホルモンの機序、ホルモンの分泌調整
11	講義	彦坂	内分泌-2	視床下部ホルモン、下垂体前葉ホルモン、下垂体中葉ホルモン、下垂体後葉ホルモン
12	講義	彦坂	内分泌-3	甲状腺ホルモン、副甲状腺ホルモン、膵臓ホルモン、副腎皮質・糖質ホルモン
13	講義	彦坂	生殖	排卵、月経、妊娠のホルモン、精巣・精巣上体の構造と機能、勃起、射精
14	講義	彦坂	老化	細胞の寿命と再生、生理的老化の特徴、身体機能の加齢変化、死の3兆候
15	講義	彦坂	復習	

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	運動学 I a										
担当者氏名	鈴木 憲雄										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

人が作業に取り組む在り様を身体運動の側面から説明できるようになるために、上肢帯と上肢の運動器の構造と機能に関する基本的知識を習得する。

《テキスト》

中村隆一，他著：『基礎運動学 第7版』，医歯薬出版株式会社，2024

《参考図書》

坂井建雄（監訳）：プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論・運動器系（第3版），医学書院，2017
石川朗（総編集）：15レクチャーシリーズ 理学療法作業療法テキスト 運動学（第2版），中山書店，2024
Paul D. Neumann他監訳：筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版 医学書院，2018
他書籍については必要に応じて授業中に紹介します。

《学生の留意点》

解剖学の学修と同時に進行する科目です。両科目間の学修内容をうまく関係づけてください。「知識」に関する学習がほとんどであるために、理解したか？説明できるか？と自問自答しながら学修を進めてください。グループ学習が多くなります。不明な点があった場合、自己学習はもちろん、疑問をためずにクラスメイトや担当教員に質問するなど、積極的に学修をすすめてください。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士が担当し、その実務経験を授業内容に活かした授業としている。

《目標行動(SBO)》

1. 人体運動を表記できる。
2. 関節運動を説明できる。
3. 筋収縮様式とその具体例を説明できる。
4. 人体運動を力学の視点を用いて説明できる。
5. 肩甲帯の構造と機能を説明できる。
6. 肩甲上腕関節の構造と機能を説明できる。
7. 肘関節・前腕の構造と機能を説明できる。
8. 手関節・手の構造と機能を説明できる。

《成績評価の方法》

授業進行中に実施する小テストの結果40% 期末試験（筆記試験）50%，授業参加態度（質疑応答・提出物の期限を守る）10%の計100%で評価する。60%以上を合格とする。60%に満たない場合、期末試験再試験の対象者とする。最終的な成績については本学院の学則に従い科目責任者が決定する。

《授業計画》

回	形式(教室)	担当者	テーマ	学習内容
1	演習	鈴木	人体各部の名称	オリエンテーション 運動学と作業療法
2	演習	鈴木	身体運動の捉え方①	基本肢位 運動の面と軸p
3	演習	鈴木	身体運動の捉え方②	骨と関節の運動 関節運動の構造と機能 関節の形状による分類 運動軸の数による分類 関節運動の表し方
4	演習	鈴木	身体運動の捉え方③	筋収縮の様態 筋の働き
5	演習	鈴木	上肢帯と上肢の運動①	上肢帯と上肢の骨格 胸鎖関節 肩鎖関節 肩関節（肩甲上腕関節） 肩甲胸郭関節
6	演習	鈴木	上肢帯と上肢の運動②	上肢帯と肩甲上腕関節の動き（肩甲胸郭関節の運動 肩甲上腕関節の運動）
7	演習	鈴木	上肢帯と上肢の運動③	肩甲胸郭関節の運動と筋
8	演習	鈴木	上肢帯と上肢の運動④	肩甲上腕関節の運動と筋
9	演習	鈴木	上肢帯と上肢の運動⑤	上肢帯と上肢の運動の特性 肩甲上腕リズム 習慣的機能の逆転 関節包内運動
10	演習	鈴木/兵頭	生体力学の基礎①	身体とてこ モーメント
11	演習	鈴木	肘関節・前腕の運動①	肘関節と前腕の構造 肘関節と前腕の関節と靱帯 腕尺関節 腕橈関節 上橈尺関節 下橈尺関節 肘関節と前腕の運動 肘関節と前腕に作用する筋
12	演習	鈴木	肘関節・前腕の運動②	肘関節と前腕に作用する筋
13	演習	鈴木	手関節と手の運動①	手関節と手の運動 手の骨 手の関節と靱帯 橈骨手根関節 手根間関節 手根中手関節 中手指節関節 指節間関節 腱鞘
14	演習	鈴木	手関節と手の運動②	手関節と手の筋 母指球筋 小指球筋 中手筋 手のアーチ 把持動作 手の機能肢位
15	演習	鈴木	まとめ	上肢帯・自由上肢の運動 まとめ

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	運動学Ⅰb										
担当者氏名	鈴木 憲雄										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

人が作業に取り組む在り様を身体運動の側面から説明できるようになるために、下肢帯・下肢・体幹・顔面、および姿勢・歩行に関する基本的な知識を修得する。

《テキスト》

中村隆一、他著：『基礎運動学 第7版』，医歯薬出版株式会社，2024

《参考図書》

坂井建雄（監訳）：プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論・運動器系（第3版）．医学書院．2017
石川朗（総編集）：15レクチャーシリーズ 理学療法作業療法テキスト 運動学（第2版）．中山書店．2024
Paul D. Neumann他監訳：筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版 医学書院．2018
他書籍については必要に応じて授業中に紹介します。

《学生の留意点》

運動学Ⅰ-a，解剖学に関連する科目となります。「知識」に関する学習がほとんどであるために，理解したか？説明できるか？と自問自答しながら学修を進めてください。グループ学習が多くなります。不明な点があった場合，自己学習はもちろん，疑問をためずにクラスメイトや担当教員に質問するなど，積極的に学修をすすめてください。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士が担当し，その実務経験を授業内容に活かした授業としている。

《目標行動(SBO)》

1. 下肢帯の構造と機能を説明できる。
2. 股関節の構造と機能を説明できる。
3. 膝関節の構造と機能を説明できる。
4. 足関節と足部の構造と機能を説明できる。
5. 脊柱の構造と機能を説明できる。
6. 胸郭の構造と機能を説明できる。
7. 顔面と頭部の構造と機能を説明できる。
8. 立位姿勢の特徴を説明できる。

《成績評価の方法》

各授業終了時に実施する小テストの結果30％ 期末試験60％（筆記試験60％，授業参加態度（提出物の期限厳守，質疑の様子）10％の計100％で評価する。60％以上を合格とする。60％に満たない場合，期末試験再試験の対象者とする。最終的な成績については本学院の学則に従い科目責任者が決定する。

《授業計画》

回	形式（教室）	担当者	テーマ	学習内容
1	演習	鈴木	下肢帯・下肢の構造と機能①	オリエンテーション 下肢帯と下肢の骨格 下肢帯と股関節の運動 股関節の構造的特徴 股関節の靭帯 股関節の動き
2	演習	鈴木	下肢帯・下肢の構造と機能②	股関節に期待される運動と作用する筋
3	演習	鈴木	股関節の構造と機能	股関節に期待される運動と作用する筋
4	演習	鈴木	膝関節の構造と機能①	膝関節の構造的特徴 膝関節の動き 膝関節に期待される関節運動と筋
5	演習	鈴木	膝関節の構造と機能①	膝関節に期待される関節運動と筋
6	演習	鈴木	足関節と足の構造と機能①	足関節と足の関節 足のアーチ
7	演習	鈴木	足関節と足の構造と機能②	足関節・足部の関節運動と筋
8	演習	鈴木	顔面・体幹の構造と機能①	脊柱の骨格 頸椎の運動 胸椎と胸郭の運動 腰椎の運動 表情筋と咀嚼筋
9	演習	鈴木	顔面・体幹の構造と機能②	頸部・胸部・腰部の運動に作用する筋 呼吸運動における胸郭の運動と筋
10	演習	鈴木	姿勢について①	姿勢・構え・体位 重心 安静立位姿勢 アライメント 立位姿勢の安定性
11	演習	鈴木	姿勢について②	姿勢の分類 動作と姿勢
12	演習	鈴木	姿勢について③	姿勢の分類 動作と姿勢
13	演習	鈴木	歩行①	移動と歩行 歩行周期 重心の軌跡 体幹の回旋 下肢関節の角度変化 歩行と筋活動
14	演習	鈴木	歩行②	歩行と筋活動 小児の歩行 高齢者の歩行
15	演習	鈴木	まとめ	運動学Ⅰ-bの内容全体についてのまとめ

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	運動学演習										
担当者氏名	鈴木 憲雄										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

人が作業に取り組む在り様を身体運動の側面から説明できるようになるために、上肢帯・上肢の骨指標及び筋の位置を特定する触診に関する基本的な知識及び技術を身につける。

《目標行動(SBO)》

1. 上肢帯の骨指標を触診により示すことができる。
2. 自由上肢の骨指標を触診により示すことができる。
3. 上肢帯の運動に作用する筋を触診により示すことができる。
4. 自由上肢の運動に作用する筋を触診により示すことができる。
7. 触診について議論できる。

《成績評価の方法》

骨・筋の触診技術に関する触診能力確認試験（50%）、筋の作用に関する小テスト（40%）、学修態度（提出物の期限厳守）10%の計100%で評価する。60%以上を合格とする。60%に満たなかった場合、触診能力確認試験の再確認対象者とする。最終的な成績については本学院の学則に従い科目責任者が決定する。

《テキスト》

青木隆明（監修）：運動療法のための機能解剖学的触診技術 動画プラス 上肢〔Web動画付〕改訂第2版。メジカルビュー社。2022

《参考図書》

中村隆一 他：『基礎運動学 第6版補訂版』。医歯薬出版。2021
日高正巳（監訳）：Know the Body～筋・骨格の理解と触診のすべて～。医歯薬出版。2014
坂井建雄（監訳）：プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論・運動器系（第3版）。医学書院。2017

《学生の留意点》

本科目は触診技能という「技能」を学ぶ科目です。その技能を身につけるために必要となる「知識」は、前期に運動学Ⅰ-aで学修した内容となります。しっかりと復習をして授業に参加してください。授業が学生間での実技演習となります。対人関係技能について・配慮も意識してください。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士が担当し、その実務経験を活かした内容である。

《授業計画》

回	形式(教室)	担当者	テーマ	学習内容
1	実技	鈴木	触診 導入 骨指標の触診①	科目オリエンテーション 触診演習の注意事項 骨指標の触診
2	実技	鈴木	骨指標の触診②	骨指標：肩甲骨、胸骨、鎖骨 肩甲棘 / 内側縁 / 外側縁 / 下角 / 上角 / 棘上窩 / 棘下窩 / 烏口突起 / 棘三角 / 肩峰角 / 肩峰 / 胸骨柄 / 胸骨体 / 剣状突起 / 胸骨角 / 胸鎖関節裂隙
3	実技	鈴木	骨指標の触診③	大結節 / 小結節 / 結節間溝 / 外側上顆 / 内側上顆 / 上腕骨小頭 / 肘頭 / 尺骨神経溝 / 尺骨神経 / 橈骨頭 / 橈骨茎状突起 / 尺骨頭 / リスター結節 / 豆状骨 / 三角骨 / 月状骨 / 舟状骨 / 小菱形骨 / 有頭骨 / 有鈎骨 / CM関節裂隙 / MP関節裂隙 / PIP関節裂隙 / DIP関節裂隙
4	実技	鈴木	骨指標の触診④	グループ演習 触診動画の作成①
5	実技	鈴木	骨指標の触診⑤	グループ演習 触診動画の作成②
6	実技	鈴木	筋の触診①	筋の起始・停止・作用に関する学習理解度確認テスト 上肢帯の運動に作用する筋の触診 小胸筋 / 僧帽筋(上中下) / 肩甲挙筋 / 大菱形筋 / 小菱形筋 / 前鋸筋
7	実技	鈴木	筋の触診②	上肢帯の運動に作用する筋の触診 肩甲上腕関節の運動に作用する筋の触診 三角筋(前中後)、大胸筋(鎖骨部・胸肋部)、烏口腕筋、棘上筋、棘下筋、小円筋、大円筋、広背筋
8	実技	鈴木	筋の触診③	肩甲上腕関節の運動に作用する筋の触診 肘関節・前腕の運動に作用する筋の触診 上腕二頭筋、上腕筋、上腕三頭筋、腕橈骨筋、円回内筋、肘筋、方形回内筋、回外筋、
9	実技	鈴木	筋の触診④	肘関節・前腕の運動に作用する筋の触診 手関節手指の運動に作用する筋・腱の触診 FCU, FDS, FDP, PL, FCR, ECRL, ECRB, ED, ECU, EPL, EPB, Abd PL
10	実技	鈴木	筋の触診⑤	手関節・手指の運動に作用する筋・腱の触診 グループ演習 触診動画の作成③
11	実技	鈴木	筋の触診⑥	グループ演習 触診動画の作成④
12	実技	鈴木	筋の触診⑦	グループ演習 触診動画の作成⑤
13	実技	鈴木	筋の触診⑧	グループ演習 触診動画の作成⑥
14	実技	鈴木	骨・筋の触診発表	骨指標の触診発表 議論
15	実技	鈴木	骨・筋の触診発表	筋の触診発表 議論

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	リハビリテーション医学										
担当者氏名	複数外来講師										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標 (GIO)》

理学・作業療法に展開するために、リハビリテーション医学の概念と各障害に対する基本的原則を学ぶ。

《テキスト》

三上真弘：『リハビリテーション医学テキスト改訂第4版』，南江堂，2016年

《参考図書》

講義内で提示します。

《目標行動 (SB0)》

1. 各障害の生じる病態・疫学・予後を記述できる
2. 各障害の診断法・医学的治療を説明できる
3. 各障害に対する病期に応じたリハビリテーションを説明できる
4. 各障害の特徴を列挙できる

《学生の留意点》

正しい医学知識を身につけ、臨床での応用を常に念頭において勉強して欲しい。

《成績評価の方法》

筆記試験 100%

《実務経験のある教員による科目》

本科目は医師が担当し、その実務経験を授業内容の講義にいかした授業としている。

《授業計画》

回	形式 (教室)	担当者	テーマ	学習内容
1	講義	外来講師	脳障害1	脳卒中・頭部外傷等の障害学
2	講義	外来講師	脳障害2	急性期のリハビリテーション
3	講義	外来講師	脳障害3	慢性期のリハビリテーション
4	講義	外来講師	脊髄損傷 1	病態総論、診断法、合併症
5	講義	外来講師	脊髄損傷 2	急性期のリハビリテーション
6	講義	外来講師	脊髄損傷 3	慢性期のリハビリテーション
7	講義	外来講師	関節リウマチ1	疾患の概要・障害像、診断と評価その1
8	講義	外来講師	関節リウマチ2	診断と評価その1、リハビリテーション
9	講義	外来講師	神経・筋疾患1	パーキンソン病、脊髄小脳変性症
10	講義	外来講師	神経・筋疾患2	多発性硬化症、ALS、筋ジストロフィー
11	講義	外来講師	骨・関節疾患	変形性関節症等
12	講義	外来講師	切断1	総論、切断と義肢
13	講義	外来講師	切断2	切断のリハビリテーション
14	講義	外来講師	循環器・呼吸器	心機能及び呼吸機能障害のリハビリテーション
15	講義	外来講師	小児リハ	小児のリハビリテーション、その他

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	精神医学概論										
担当者氏名	並木 秀樹										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

精神疾患のある対象者を的確に理解し、作業療法へ展開するために、主な精神障害および疾病の症状、それに対する一般的な治療について学ぶ。

《テキスト》

上野 武治：『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版増補版』、医学書院。

《参考図書》

尾崎 紀夫：『標準精神医学 第7版』、医学書院、2018
大熊 輝雄：『現代臨床精神医学改訂第12版』、金原出版株式会社、2013
上島 国利：『精神医学テキスト-精神障害の理解と治療のために 改訂第5版』、南江堂、2024

《目標行動(SBO)》

1. 精神医学の定義と関連領域について説明できる。
2. 精神障害および精神障害者に関する概念について説明できる。
3. 精神障害の成因と分類について説明できる。
4. 精神障害の際に出現する精神症状について説明できる。
5. 主な疾患についての診断と評価、治療について説明できる。
6. 精神障害者が利用できる精神医療・福祉制度について説明できる。

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

期末試験（筆記試験）100%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野におけるセラピストとしての実務の経験を、精神医学の基礎という観点から授業内容に生かした科目としている。

《授業計画》

回	形式(教室)	担当者	テーマ	学習内容
1	講義	並木	総論	精神医学とは・精神障害の成因と分類
2	講義	並木	〃	精神機能の障害と精神症状
3	講義	並木	〃	精神障害の診断と評価
4	講義	並木	各論	脳器質性精神障害 認知症 てんかん
5	講義	並木	〃	症状性精神障害・精神作用物質
6	講義	並木	〃	統合失調症（1）
7	講義	並木	〃	統合失調症（2）
8	講義	並木	〃	気分（感情）障害
9	講義	並木	〃	神経症性障害（不安症・強迫症・解離症・身体症状症他）
10	講義	並木	〃	パーソナリティ障害 摂食障害
11	講義	並木	〃	精神遅滞 心理的発達障害
12	講義	並木	〃	精神遅滞 心理的発達障害
13	講義	並木	〃	精神障害者の雇用促進と就労支援
14	講義	並木	〃	精神保健医療福祉の制度
15	講義	並木	〃	精神障害リハビリテーション 薬物療法

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	臨床心理学										
担当者氏名	杉村 夕										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

対象者の心理的特徴や心的作用を考慮しながら実際場面で対応できるようになるために、臨床心理学の基本的理論、心理検査法、心理療法などを学ぶ。

《テキスト》

特になし

《参考図書》

授業の中でその都度紹介します

《目標行動(SBO)》

1. 臨床心理学の定義と対象、基本的な考え方を説明できる。
2. 代表的な心理検査の種類を列挙し、その特徴と内容について説明できる。
3. 代表的な心理療法について列挙し、その特徴と内容について説明できる。

《学生の留意点》

実際にさまざまな心理検査を実施したり、さまざまな心理療法の基礎を体験してもらったりします。
積極的な授業参加を期待します。

《成績評価の方法》

期末試験100 %

《実務経験のある教員による科目》

当科目は臨床心理士が担当し、その実務経験を活かした授業としている。

《授業計画》

回	形式(教室)	担当者	テーマ	学習内容
1	講義	杉村	臨床心理学の定義と対象、基礎理論	臨床心理学の定義と対象、基礎理論(学習、記憶、行動)
2	講義	杉村	心理アセスメント	面接法、行動観察法、心理検査法
3	講義	杉村	心理検査法①	性格検査(質問紙法)
4	講義	杉村	心理検査法②	性格検査(投影法)
5	講義	杉村	心理検査法③	性格検査(作業検査法)
6	講義	杉村	心理検査法④	知能検査(ウェクスラー式、ビネー式)
7	講義	杉村	心理療法①	概論
8	講義	杉村	心理療法②	精神分析療法、防衛機制と転移
9	講義	杉村	心理療法③	クライエント中心療法
10	講義	杉村	心理療法④	行動療法、認知行動療法
11	講義	杉村	心理療法⑤	自律訓練法
12	講義	杉村	心理療法⑥	その他の心理療法
13	講義	杉村	ライフサイクルと心理的問題	ライフサイクルと心理的問題、障害者・高齢者の心理、障害の受容、その他
14	講義	杉村	ストレスマネジメント	ストレスマネジメント
15	講義	杉村	まとめ	まとめ

《専門基礎分野 保健医療福祉とリハビリテーションの理念》

科目名	リハビリテーション概論										
担当者氏名	藤川 明代 浅沼 辰志、山田 千鶴子、柴田 真実										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

リハビリテーションを考究し続ける理学療法士になるために、リハビリテーションを概観し、特にパラスポーツを理解すること。

《テキスト》

久保俊一：『リハビリテーション医学・医療コアテキスト第2版』。医学書院。2022年

《参考図書》

砂原茂一。「リハビリテーション」。岩波新書。1980。
上田敏。「リハビリテーション 新しい生き方を創る医学」。ブルーバックス。1996。長谷川幹。「リハビリ 生きる力を引き出す」。岩波新書。2019。

《目標行動(SBO)》

1. リハビリテーション歴史と理念を説明できる。
2. 医学的リハビリテーションの概要を理解できる。
3. 障害とは何か、理解できる。
4. リハビリテーションの多様性を説明できる。
5. パラスポーツの概要を理解できる

《学生の留意点》

理学療法士の業務の場であるリハビリテーションの理念、歴史、実際と未来について学び、療法士の主な対象者である患者、障がい者を全人的に理解することを学んでください。

《成績評価の方法》

各回の課題で評価する（100％）。

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における医師・理学療法士・作業療法士としての実務経験を、専門分野の観点から授業内容に活かした科目としている。

《授業計画》

回	形式（教室）	担当者	テーマ	学習内容
1	講義	山田	オリエンテーション	導入、リハビリテーションの定義とその諸相
2	講義	外来	リハビリテーションの歴史と理念	リハビリテーションの歴史、理念、チームアプローチ
3	講義	外来	リハビリテーション医療	評価会議とゴール設定、リハビリテーションプログラム、クリニカルパス
4	講義	外来	医学的リハビリテーション	病期別リハビリステーション、地域リハビリテーション
5	講義	山田	リハビリテーションの理念と社会医学技術学院	社会医学技術学院創設者の目指したリハビリテーションとは
6	講義	浅沼	障害とは	定義、歴史、国際生活機能分類、自立生活、ノーマライゼーション
7	実技	藤川	障害体験①	肢体不自由
8	実技	藤川	障害体験②	視覚障がい、聴覚・音声言語障がい
9	演習	藤川	パラスポーツ①	障がい者スポーツの意義と理念
10	演習	藤川	パラスポーツ②	スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質
11	実技	藤川	パラスポーツ③	全国障がい者スポーツ大会の概要
12	実技	藤川	パラスポーツ④	実技
13	講義	柴田	患者・障害者の心理・社会的側面①	患者・障がい者の心理、障害受容
14	講義	柴田	患者・障害者の心理・社会的側面②	心理教育、自立支援・就労支援・両立支援
15	講義	浅沼	専門職に求められるもの	チームにおける理学療法士・作業療法士の役割と責任

《専門分野 基礎作業療法学》

科目名	作業療法概論										
担当者氏名	鈴木 憲雄										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										○
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

対象者の健康と幸福を作業を通して支えるという作業療法の本質を実践するために必要となる作業療法の概念、成り立ち、作業療法の専門性の考え方を身につける。

《テキスト》

長島重信監修：作業療法学ゴールドマスター・テキスト 作業療法学概論 第3版 メジカルビュー社、2021

《参考図書》

砂原茂一：『リハビリテーション』、岩波新書新、1980
秋元波留夫、他：『新・作業療法の源流』、三輪書店、1991
矢谷令子編：『作業療法』、協同医書出版社、2014

《目標行動(SBO)》

1. 世界の作業療法の歴史の概要を説明できる。
2. 日本の作業療法の創成期の出来事について説明できる。
3. 作業療法の各領域の対象者と実践内容の概要を説明できる。
4. 作業療法の定義（対象、目的、方法）から作業療法について説明できる。

《学生の留意点》

なぜ作業療法がこの世に必要とされたのかを共に考えるとともに作業療法領域全体を学ぶ授業となります。そのことは将来皆さんが作業療法の本質を踏まえた実践をするために必要となる基礎的な内容を学ぶことを意味します。また、本科目は本学院で学ぶすべての科目を結びつける内容であることを意味します。積極的に授業に参加してください。

《成績評価の方法》

期末試験（筆記試験）50%、授業態度（課題提出期限を守る）20%、課題、小テスト等30%で総合的に評価する。60%以上を合格とする。60%に満たなかった場合は筆記試験による再試験の受験該当者とする。

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における作業療法士としての実務の経験を、作業療法の基礎知識を学ぶという観点から授業内容に生かした科目としている

《授業計画》

回	形式（教室）	担当者	テーマ	学習内容
1	演習	鈴木	オリエンテーション 作業療法とは①	授業オリエンテーション 作業療法とは何か どのようなイメージか 【自己主導型/グループ学習】
2	演習	鈴木	作業療法とは②	作業療法とは何か 【グループ内共有と整理・報告準備】
3	演習	鈴木	作業療法とは③ 前（前とは？）	作業療法とは何か 【全体への報告・議論】
4	演習	鈴木	作業療法の定義 後（後とは？）	作業療法の名称p86、治療手段としての「作業」の意味p87ー、「作業療法の定義p92ー
5	演習	鈴木	作業療法の対象 ①	第4章 作業療法の対象p97ー身体障害p98ー精神障害p115ー、発達障害p125ー、高齢期p160ー 【自己主導型/グループ学習】
6	演習	鈴木	作業療法の対象 ②	第6章 作業療法の対象と専門領域 【グループ内共有と整理・報告準備】
7	演習	鈴木	作業療法の対象 ③	第6章 作業療法の対象と専門領域 【全体への報告および議論】 その他（高次脳・地域・医療観察法・特別支援学校・職業リハ・学校養成施設）領域
8	演習	鈴木	作業療法の歴史①	Kielhafner, G. の歴史分析 総論
9	演習	鈴木	作業療法の歴史②	Kielhafner, G. の歴史分析 【グループ内共有と整理・報告準備】
10	演習	鈴木	作業療法の歴史③	Kielhafner, G. の歴史分析 歴史分析/パラダイム/ 【全体への報告および議論】
11	演習	鈴木	作業療法の定義①	作業療法の定義 対象・目的・方法 【自己主導型学習/グループ学習】
12	演習	鈴木	作業療法の定義②	作業療法の定義 対象・目的・方法 【グループ内共有と整理・報告準備】
13	演習	鈴木	作業療法の定義③	作業療法の定義 対象・目的・方法 【全体への報告および議論】
14	演習	鈴木	作業療法の成り立ち	作業療法の源流を探る
15	演習	鈴木	作業療法実践例/まとめ	作業療法実践例/ 本科目のまとめ

《専門分野 基礎作業療法学》

科目名	基礎作業療法学										
担当者氏名	鈴木 憲雄										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									
		DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
		DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									
		DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									

《一般教育目標(GIO)》

人が作業に就く在り様を作業療法を提供するために「作業」に関する知識、例えば作業の定義、作業の種類、分析方法に関する基本的な知識を身につけるとともに、各作業療法実践領域における作業を使用した作業療法実践例を知ることによって、作業を治療的に用いることのレディネスを得る。

《目標行動(SBO)》

1. 作業療法における作業の意味を説明できる。
2. 作業が持つ力について説明できる。
3. 様々な作業の定義・種類を説明できる。
4. 包括的作業分析とはどのようなものかを説明できる。
5. 限定的作業分析とはどのようなものかを説明できる。
6. 各領域における作業分析・応用の例を列挙できる。
7. 各領域における実践例のからくりを説明できる。

《成績評価の方法》

筆記試験60%

課題(ワークシート)40%

双方の成績を総合的に合算して判断する。

《テキスト》

長崎重信監修 浅沼辰志編集：作業療法学 ゴールド・マスタート・テキスト 作業学 第3版 MEDICAL VIEW, 2021

《参考図書》

澤田雄二編：『作業療法学全書 改訂第3版 基礎作業学』協同医書出版社, 2009
山根寛著 ひとと作業・作業活動 新版 三輪書店 2019年

その他、適宜紹介する

《学生の留意点》

作業療法の治療道具となる「作業」について、基礎となる知識を学び、各領域において作業をどのように治療で応用するかという実践例について説明を聞きます。自身の経験を思い出しながら授業に参加すると理解しやすいかもしれません。

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における作業療法士としての実務の経験を、ひとと作業という観点から授業内容に生かした科目としている。

《授業計画》

※順番が前後することがございます。

回	形式(教室)	担当者	テーマ	学習内容
1	講義	鈴木	作業の概念	オリエンテーション 作業療法における作業p6
2	講義	鈴木	作業利用の歴史	作業を用いた療法に関連する基本的事項p14ー、作業によってしか実現できないことp14ー、作業のもつ多面性p15ー、作業と発達・適応・回復p16
3	講義	鈴木	作業の定義	作業とはp6ー 作業が意味しているのは何か
4	講義	鈴木	作業活用の歴史	作業療法における世界の作業活用の歴史p16ー 日本の作業活用の歴史p17ー
5	講義	鈴木	作業の種類	作業と生活機能 MTDLPと作業
6	講義	鈴木	作業分析	作業を分析するp40 目的 種類 方法について
7	演習	鈴木	作業の要素	包括的作業分析とは 限定的作業分析とは 【自己主導型/グループ学修】
8	演習	鈴木	作業の要素	包括的作業分析とは 限定的作業分析とは 【グループ学修/報告準備】
9	演習	鈴木	作業の要素	包括的作業分析とは 限定的作業分析とは 【全体報告準備】
10	講義	鈴木	作業の選択	作業を治療に用いる条件p18ー
11	講義	並木	作業とかかわり	精神障害領域における治療への応用
12	講義	兵頭	治療への応用	発達障害領域における治療への応用
13	講義	木下	治療への応用	高齢期における治療への応用
14	講義	福井	治療への応用	身体障害領域における治療への応用
15	講義	鈴木	作業 まとめ	まとめにかえて：作業に就くことによって得られメリットとデメリット

《専門分野 基礎作業療法学》

科目名	基礎作業学演習Ⅰ										
担当者氏名	並木 秀樹										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

作業療法において、代表的な作業活動を用いるための基本的知識を理解する。

《テキスト》

古川宏『つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル 第2版』。医歯薬出版株式会社。2018

《参考図書》

日本作業療法士協会『作業—その治療と応用』協同医書出版社。2008
浅沼辰志他『基礎作業学実習ガイド 作業活動のポイントを学ぶ』協同医書出版社。2008

《目標行動(SBO)》

1. 作業療法における代表的な作業活動（アクティビティ）の全工程を実施できる
2. 作業分析の基礎となる項目を列挙できる
3. 作業分析の基礎となる項目を説明できる
4. 作業活動の治療的要素の例を列挙できる

《学生の留意点》

本授業は、作業療法の特徴の一つである「作業を用いる」ことの基礎となる。「作業を用いて療法と成す」ための基礎として、各作業体験へ積極的な取り組みを望む。
実際に作業活動を実施するため、動きやすく汚れても構わない服装が望ましい。

《成績評価の方法》

作品課題60%（各作品の工程の遵守40%，期限提出20%）
レポート課題40%（内容30%，期限提出10%）

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士が担当し、その実務経験を授業内容の演習に活かした授業としている。

《授業計画》

回	形式（教室）	担当者	テーマ	学習内容
1	演習（OT室）	並木	作業体験①	コースオリエンテーション、絵画を経験し、簡易作業分析を行う。
2	演習（OT室）	並木	作業体験②	心理療法的な絵を経験し、簡易作業分析を行う。
3	演習（OT室）	並木	作業体験③	自由度の高い絵画を経験し、簡易作業分析を行う。
4	演習（OT室）	並木	作業体験④	自由度の高い絵画を経験し、簡易作業分析を行う。
5	演習（OT室）	並木	作業体験⑤	革細工の刻印、染色を経験し、簡易作業分析を行う。
6	演習（OT室）	並木	作業体験⑥	革細工の作成作業を経験し、簡易作業分析を行う。
7	演習（OT室）	並木	作業体験⑦	革細工の作成作業を経験し、簡易作業分析を行う。
8	演習（OT室）	並木	作業体験⑧	ネット手芸の設計、作成を経験し、簡易作業分析を行う。
9	演習（OT室）	並木	作業体験⑨	ネット手芸の作成を経験し、簡易作業分析を行う。
10	演習（OT室）	並木	作業体験⑩	簾細工を経験し、簡易作業分析を行う。
11	演習（OT室）	並木	作業体験⑪	簾細工を経験し、簡易作業分析を行う。
12	演習（OT室）	並木	作業体験⑫	簾細工を経験し、簡易作業分析を行う。
13	演習（OT室）	並木	作業体験⑬	アンデルセン手芸を経験し、簡易作業分析を行う。
14	演習（OT室）	並木	作業体験⑭	アンデルセン手芸を通して、協同作業を経験し、簡易作業分析を行う。
15	演習（OT室）	並木	作業体験⑮	これまでに経験した作業から一つを選択し、グループにて簡易作業分析を行う。

《専門分野 基礎作業療法学》

科目名	基礎作業学演習Ⅱ										
担当者氏名	並木 秀樹										
授業方法	演習	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

作業療法的手段として構成的作業、非構成的作業を用いるための基本的知識・技術を習得する。

《テキスト》

古川宏：『つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル第2版』医歯薬出版株式会社、2018。

《参考図書》

- 1) 山根寛：『ひとと作業・作業活動 新版』三輪書店、2017。
日本作業療法士協会：『作業—その治療と応用 改訂第2版』協同医書出版社、2003。
- 2) 浅沼辰志他：『基礎作業学実習ガイド 作業活動のポイントを学ぶ』協同医書出版社、2008。

《目標行動(SBO)》

1. 各作業活動において、基本的な知識を説明できる。
2. 各作業活動において、基本的な技術を実施できる。
3. 各作業活動において、一連の工程を実施できる。
4. 包括的作業分析を簡易的に実施できる。

《学生の留意点》

- ・本授業は、構成的作業と非構成的作業の体験を通して作業の特徴等を学ぶ機会となる。
- ・臨床に必要な手段、有効な手段として作業活動を適切に選択するために、積極的な取り組みを推奨する。
- ・服装は動きやすく汚れてもよいもの、エプロン等を用意する。
- ・感染対策事項に基づいて演習に取り組むこと。

《成績評価の方法》

作品課題60%（各作品の工程の遵守40%，期限提出20%）
分析シート課題40%（内容30%，期限提出10%）

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士が担当し、その実務経験を授業内容の演習に活かした授業としている。

《授業計画》

回	形式(教室)	担当者	テーマ	学習内容
1	演習(OT室)	並木	オリエンテーション 構成的作業①	構成的作業を体験する。鋸挽きを通した木材の特徴を経験し、簡易作業分析を行う。
2	演習(OT室)	並木	構成的作業②	構成的作業を体験する。木工を経験し、簡易作業分析を行う。
3	演習(OT室)	並木	構成的作業③	構成的作業を体験する。木工を経験し、簡易作業分析を行う。
4	演習(OT室)	並木	構成的作業④	構成的作業を体験する。木工を経験し、簡易作業分析を行う。
5	演習(OT室)	並木	構成的作業⑤	構成的作業を体験する。七宝焼きを経験し、簡易作業分析を行う。
6	演習(OT室)	並木	構成的作業⑥	構成的作業を体験する。七宝焼きを経験し、簡易作業分析を行う。
7	演習(OT室)	並木	構成的作業⑦	構成的作業を体験する。金工を経験し、簡易作業分析を行う。
8	演習(OT室)	並木	非構成的作業①	非構成的作業を体験する。陶芸の土練りを経験し、簡易作業分析を行う。
9	演習(OT室)	並木	非構成的作業②	非構成的作業を体験する。陶芸の玉づくりを経験し、簡易作業分析を行う。
10	演習(OT室)	並木	非構成的作業③	非構成的作業を体験する。陶芸のひもづくりを経験し、簡易作業分析を行う。
11	演習(OT室)	並木	非構成的作業④	非構成的作業を体験する。陶芸の板づくりを経験し、簡易作業分析を行う。
12	演習(OT室)	並木	非構成的作業⑤	非構成的作業を体験する。陶芸における成形の仕上げを経験し、簡易作業分析を行う。
13	演習(OT室)	並木	非構成的作業⑥	非構成的作業を体験する。陶芸における施釉を経験し、簡易作業分析を行う。
14	演習(OT室)	並木	非構成的作業⑦	焼きあがった陶芸作品を通し振り返るとともに、簡易作業分析を行う。
15	演習(OT室)	並木	治療に活かす	作業の分析結果から症例への工夫を体験する(グループ)

《専門分野 作業療法評価学》

科目名	作業療法評価学総論										
担当者氏名	鈴木 憲雄										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		DP1	人を一個人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人								
		DP2	対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人								○
		DP3	他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人								
		DP4	専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人								

《一般教育目標(GIO)》

作業療法の対象者について 作業療法の本質を踏まえた作業療法を実施できるようにするために、作業療法評価の位置づけや考え方、評価計画の立て方、各領域に共通して行う評価法の概略、画像評価、あるいは作業療法全体の流れに関する知識を身につける。

《テキスト》

能登真一他編集：『標準作業療法学 作業療法評価学 第4版』、医学書院、2024。

《参考図書》

必要に応じて参考資料を適宜紹介する。

《目標行動(SBO)》

1. 作業療法の評価の目的について説明できる。
2. 作業療法評価の過程について説明できる。
3. 作業療法評価の手段について説明できる。
4. 作業療法評価計画立案の考え方を説明できる。
5. 情報収集から治療計画立案に至る過程を説明できる。

《学生の留意点》

作業療法の実践に1歩近づく授業となります。作業療法を実施する上で必要となる「評価」に関する知識を修得することになります。覚えなければならないことが山積みです。自己主導型学習とグループ学修をうまく組み合わせて確実な知識を身につけるよう頑張りましょう。

《成績評価の方法》

筆記試験50% 学習態度（グループ学習に関する報告の内容・態度・提出期限の厳守）30% 授業中に行う小テスト20% の計100%で評価する。60%以上を合格とする。60%未満である場合は、筆記試験（100%）の再試験該当者とする。最終的な成績については本学院の学則に従い科目責任者が決定する。

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における作業療法士としての実務の経験を、作業療法評価学総論の授業に活かした科目としている。

《授業計画》

回	形式(教室)	担当者	テーマ	学習内容
1	演習	鈴木	作業療法と評価	オリエンテーション 作業療法の過程 実践過程 評価とは 作業療法と評価 エビデンス
2	演習	鈴木	障害受容とラポール形成	対象者の心理の理解 障害受容
3	演習	鈴木	情報収集について	作業療法実践過程 ICFモデル 情報収集
4	演習	鈴木	評価について①	評価の目的 2つの評価とそれぞれの目的、初期評価の目的、評価の実施場所、実施場所ごとの評価の主眼、実施場所ごとの評価の項目
5	演習	鈴木	評価について②	評価を実施する際の原則、評価の手段（測定・検査・試験・観察）、評価の手段の種類
6	演習	鈴木	評価について③	評価尺度（名義尺度・順序尺度・間隔尺度・比例尺度）、信頼性と妥当性
7	演習	鈴木	評価について④ 臨床推論概論	評価実施上の留意点、データで残すことの重要性、問題点と利点の抽出、統合と解釈、クリニカルリーズニング概略
8	演習	鈴木	評価について⑤	治療目標の設定、リハビリテーションゴール、長期目標、短期目標、治療・指導・援助の立案に必要な論理的思考、治療メカニズム
9	演習	鈴木	評価について⑥	再評価と効果判定
10	演習	鈴木	臨床推論	クリニカルリーズニング、科学的・物語的・倫理的・実証的・相互交流的リーズニング（作業療法リーズニングの教科書 MEDICAL VIEW参照）
11	演習	鈴木	情報の整理について	手段 情報の種類 具体的な評価項目、ICIDHからICFへ ICFの構成要
12	演習	鈴木	ICFを用いた医療情報の整理①	ICFを用いた整理① 事例報告を通して 【自己主導型学習/グループ学修】
13	演習	鈴木	ICFを用いた医療情報の整理②	ICFを用いた整理の仕方② 【グループ内共有/報告準備】
14	演習	鈴木	ICFを用いた医療情報の整理③	ICFを用いた整理の仕方③ 【全体報告/議論】 もしも使用する理論・モデルを変えた場合は…
15	演習	鈴木	情報収集・評価について	まとめ 対象者の違いと収集する情報の違い 多職種と共通の情報と作業療法独特の情報 議論

《専門分野 作業療法評価学》

科目名	身体系作業療法評価学										
担当者氏名	鈴木 憲雄										
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

対象者から身体的な情報を検査・測定法により収集できるようになるために、各検査・測定法の目的・意義を理解するとともに、学生間での演習によってその検査・測定法を実施することができる。

《テキスト》

1. 能登真一他：標準作業療法学作業療法評価学第4版、医学書院、2024

《参考図書》

1. 伊藤俊一：PT・OTのための測定評価ROM測定第3版、三輪書店、2010
2. 田崎義昭他：ベッドサイドの神経の診かた 改訂17版、南山堂、2016
その他必要に応じて資料を提示する。

《目標行動(SBO)》

1. 各検査・測定の目的、意義を説明できる。
2. 各検査・測定の実施要領について説明できる。
3. 指定した検査測定について指示された方法により学生間でアセスメントを実施できる。（バイタルサイン・JCS・GCS・関節可動域測定・感覚検査・反射検査）
4. 検査・測定場面の設定について、リスク管理・環境に配慮すべき内容を説明できる。

《学生の留意点》

対象者の具体的な情報収集に関する授業となります。本科目は身体に関連する情報収集方法を身につけることが目的となります。

《成績評価の方法》

期末試験（筆記試験 50%）関節可動域測定実技課題（50%）の合計100点で評価する。合計点が60%未満のものは関節可動域測定実技試験の再試験該当者とする。最終的な成績については本学院の学則に従い科目責任者が決定する。

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における作業療法士としての実務の経験を、作業療法評価学演習の授業に活かした科目としている。

《授業計画》

回	形式（教室）	担当者	テーマ	学習内容
1	実技	鈴木	作業療法評価とは	オリエンテーション 作業療法評価とは バイタルサインとは
2	実技	鈴木	バイタルサイン	バイタルサインの測定（血圧・脈拍・呼吸・体温、Andersonの基準/土井変法）
3	実技	鈴木	意識レベル・形態測定	意識レベル（JCS・GCS）・形態測定
4	実技	鈴木	関節可動域測定 ①	意義・器具の取扱い・検査法・リスク管理
5	実技	鈴木	関節可動域測定 ②	関節可動域及び関節可動域測定 意義と目的 基礎知識 角度計 測定手順 上肢（肩甲帯～肩関節～肘関節）、最終域感p95
6	実技	鈴木	関節可動域測定 ③	上肢（肩関節・肘関節・前腕～手関節）
7	実技	鈴木	関節可動域測定 ④	上肢（母指・手指）
8	実技	鈴木	関節可動域測定 ⑤	下肢（股関節）
9	実技	鈴木	関節可動域測定 ⑥	下肢（膝関節～足関節）
10	実技	鈴木	関節可動域測定 ⑦	体幹・頸部
11	実技	鈴木	関節可動域測定 ⑧	関節可動域測定 まとめ
12	実技	鈴木	感覚検査①	中枢神経障害の感覚検査：表在感覚・深部感覚・複合感覚
13	実技	鈴木	感覚検査②	末梢神経障害の感覚検査（ASIA）
14	実技	鈴木	反射	反射検査の意義と目的 腱反射 病的反射
15	実技	鈴木	実技のまとめ	実技課題

《専門分野 作業療法評価学》

科目名	精神神経系作業療法評価学										
担当者氏名	並木 秀樹										
授業方法	講義	単位数	1	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										

《一般教育目標(GIO)》

作業療法評価ができるために、作業活動を用いた評価、観察、面接の基本的知識・技術を習得するとともに、各種評価法における目的・対象・特徴を理解する。

《テキスト》

長崎重信：『作業療法学ゴールド・マスター・テキスト精神障害作業療法学 第3版』メジカルビュー、2021。

《参考図書》

岩崎テル子，他編：『標準作業療法学 作業療法評価学 第3版』医学書院、2017。
生田宗博編：『作業療法学全書 改訂第3版 作業療法評価学』協同医学出版社、2009。

《目標行動(SBO)》

1. 作業活動を用いた評価の視点について説明できる。
2. 作業活動を用いた評価の方法を説明できる。
3. 作業活動を用いた評価、観察、面接を一部実施できる。
4. 各種評価法の目的・対象・特徴を説明できる。
5. 記録の意義、形式について、説明できる。
6. 記録を一部実施できる。

《成績評価の方法》

筆記試験：85%，小課題：15%
上記合計で100%で6割に満たない場合は再試験とする。

《学生の留意点》

本授業は、「作業を用いた評価」の基礎を学び、領域を問わずに作業活動を用いて対象者を評価する基盤となる、評価に作業活動を用いる特性や視点を学習する。
尚、本授業は自己を客観視する機会が含まれ、作業療法の特徴の一つである「the therapeutic use of the self」を考える機会となる。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は作業療法士が担当し、その実務経験を授業内容の演習に活かした授業としている。

《授業計画》

回	形式(教室)	担当者	テーマ	学習内容
1	講義	並木	作業活動を用いた評価の概論①	オリエンテーション、作業療法における評価とは何か、評価の流れはどのようなものかを学習する。
2	講義	並木	作業活動を用いた評価の概論②	構成的評価法と非構成的評価法の特徴、得られたデータの使い方を学習する。
3	講義	並木	観察法を用いた評価①	「見る」と「観察」の違い、観察のポイント、観察の種類について学習する。
4	講義・演習(OT室)	並木	観察法を用いた評価②	観察演習と実際の観察情報から、臨床において目的と確認方法の計画を学習する。
5	講義・演習	並木	作業遂行を用いた評価	対人関係の評価方法から、エゴグラムを体験し、その方法と自分自身の特徴を学習する。
6	演習	並木	精神障害領域の観察評価	作業を指導し、参加しながら観察することについて演習を通して学習する。
7	講義	並木	面接法を用いた評価①	面接の意義と目的、面接の種類、位置関係や環境の使い分け、質問の種類について学習する。
8	演習	並木	面接法を用いた評価②	面接における原則を踏まえ、面接にはどのような準備、注意、接触技術が必要かを演習を通して学習する。
9	演習	並木	面接法を用いた評価③	「興味チェックシート」を活用した興味を聴取する面接の演習を通して、質問紙を用いた面接について学習する。
10	講義	並木	各種評価・検査、尺度①	知能および人格に対する検査法を学習する。
11	講義	並木	各種評価・検査、尺度②	精神症状、作業ニーズ、作業遂行技能に対する評価法を学習する。
12	講義	並木	各種評価・検査、尺度③	日常生活動作、社会生活、主観的QOL、職業関連に対する評価法を学習する。
13	講義	並木	集団を用いた評価①	集団の特徴、種類、構造、治療因子について学習する。
14	演習(OT室)	並木	集団を用いた評価②	集団を用いた評価について演習を通して学習する。
15	講義	並木	記録の目的、形式、注意点	記録の目的と形式、注意点、客観と主観の整理、作業療法の記録には何を書くべきかを、特に自習時のデイリーノートと関連させて学習する。

《専門分野 地域作業療法学》

科目名	地域作業療法学Ⅰ									
担当者氏名	柴田 真実									
授業方法	講義	単位数	2	回数	15	時間数	30	開講年次	1	開講時期 後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人									
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人									○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人									
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人									

《一般教育目標(GIO)》

地域で作業療法を提供できるようになるために基盤となる法律および制度を知り、幅広い作業療法の実施形態について理解することを目的とします。

《テキスト》

大熊明編：『標準作業療法学 地域作業療法学 第4版』、医学書院、2023

《参考図書》

大田仁史著：『地域リハビリテーション論Ver7』、医歯薬出版株式会社、2018
太田睦美編：『作業療法学全書 第13巻 地域作業療法学 改訂第3版』、協同医書出版、2009年
大熊明編：『標準作業療法学 地域作業療法学 第3版』、医学書院、2017

《目標行動(SBO)》

1. 日本における地域作業療法の歴史を知る
2. 地域作業療法の基盤となる各法律・制度等について知り、各制度における作業療法士の活躍の場を説明できる
3. 各領域の作業法の目的や役割、実際の活動内容を知り知識を共有できる
4. 地域作業療法に必要な知識と技術について説明できる

《成績評価の方法》

筆記試験なし。
課題100%：ワークシート提出（64%）発表課題（36%）

《学生の留意点》

この授業では広範な地域作業療法の臨床実践について専門の作業療法士から話を伺う機会を多く設けます。外来講師の話を理解するための事前学習が必要です。毎回のグループワークは積極的に役割を担ってください。地域作業療法の実践家となるために必要な知識と技術をどの科目で修得することができるか毎回確認することをお勧めします。

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における作業療法士としての実務の経験を、地域作業療法という観点から授業内容に生かした科目としている。

《授業計画》

回	形式(教室)	担当者	テーマ	学習内容
1	講義	柴田	オリエンテーション 地域作業療法の沿革	教科書P1～35の内容を説明します。地域作業療法の歴史を知り、これからの職域の広がりについて検討します。講義を聞きながらワークシートを仕上げ授業後に提出します。ワークシートの内容を評価します。
2	講義	柴田	医療保険制度と介護保険制度	教科書39～59の内容から主に作業療法実施の基盤となる医療保険と介護保険の制度について説明します。講義を聞きながらワークシートを仕上げ授業後に提出します。ワークシートの内容を評価します。
3	講義	柴田	障害者総合支援法と児童福祉法/地域作業療法における多職種連携	教科書60～65の内容から障害者総合支援法の作業療法に関する事柄について説明します。また、配布資料を使用し児童福祉法の作業療法に関する事柄について説明します。教科書66～92の内容を説明します。対象者の支援のために協力し合う多職種について、その役割を理解します。講義を聞きながらワークシートを仕上げ授業後に提出します。ワークシートの内容を評価します。
4	演習	柴田	介護保険による作業療法について知る	訪問作業療法及び介護老人保健施設での作業療法について書籍・インターネットなどで調べ学習を行いグループでまとめ発表します。発表資料をグループの提出物として評価をします。
5	講義	木下 河野崇	介護保険による作業療法について知る	事前学習をもとに外来講師の講義を聞き、事前学習した内容と実際の内容との相違を確認します。授業後にワークシートを仕上げ提出します。ワークシートの内容を評価します。
6	演習	柴田	障害者総合支援法による作業療法について知る	障害者総合支援法による自立訓練・就労支援・グループホームの作業療法について書籍・インターネットなどで調べ学習を行いグループでまとめ発表します。発表資料をグループの提出物として評価をします。
7	講義	駒井	障害者総合支援法による作業療法について知る	事前学習をもとに外来講師の講義を聞き、事前学習した内容と実際の内容との相違を確認します。授業後にワークシートを提出します。ワークシートの内容を評価します。
8	講義	石黒	障害者総合支援法による作業療法について知る	事前学習をもとに外来講師の講義を聞き、事前学習した内容と実際の内容との相違を確認します。授業後にワークシート提出します。ワークシートの内容を評価します。
9	演習	柴田	児童福祉法による作業療法について知る	児童福祉法による放課後等デイサービス・発達支援センターの作業療法について書籍・インターネットなどで調べ学習を行いグループでまとめ発表します。発表資料をグループの提出物として評価をします。
10	講義	小林	児童福祉法による作業療法について知る	事前学習をもとに外来講師の講義を聞き、事前学習した内容と実際の内容との相違を確認します。授業後にワークシートを仕上げ提出します。ワークシートの内容を評価します。
11	演習	柴田	その他の制度による地域作業療法について知る	海外シニア協力隊での作業療法・終末期の方への訪問作業療法について書籍・インターネットなどで調べ学習を行いグループでまとめ発表します。発表資料をグループの提出物として評価をします。
12	講義	大塚	その他の制度による地域作業療法について知る	事前学習をもとに外来講師の講義を聞き、事前学習した内容と実際の内容との相違を確認します。授業後にワークシートを提出します。ワークシートの内容を評価します。
13	講義	大瀬	その他の制度による地域作業療法について知る	事前学習をもとに外来講師の講義を聞き、事前学習した内容と実際の内容との相違を確認します。授業後にワークシートを提出します。ワークシートの内容を評価します。
14	演習	柴田	まとめ①	広い領域にわたる地域作業療法の知識を整理することを目的に13回の授業の内容をまとめ、この科目で学んだこと興味関心を抱いたことを発表資料として個人でパワーポイントにまとめます。
15	演習	柴田	まとめ②	前回まとめたパワーポイント資料を使って、この科目で学んだこと興味関心を抱いたことを発表し、また他者の発表を聞きワークシートに感想を書いて提出します。発表資料を評価します。

《専門分野 臨床実習》

科目名	臨床見学実習										
担当者氏名	柴田 真実										
授業方法	実習	単位数	1	回数	-	時間数	45	開講年次	1	開講時期	前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										○
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										○
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										○

《一般教育目標(GIO)》

作業療法場面を見学することにより、リハビリテーションの在り方、作業療法士の仕事や役割について理解を深める。専門職としての作業療法士及び職業人として適切な態度や行動を学習し、作業療法学生としての自覚と学習意欲の向上を図る。

《テキスト》

関連科目の教科書

《参考図書》

実習地で紹介される文献

《目標行動(SBO)》

1. 施設の規則を守ることができる
2. 守秘義務を守り、個人情報保護に配慮できる
3. 時間を守り、責任ある行動がとれる
4. 医療人としての身だしなみに配慮できる
5. 適切な言葉を用い、礼節を尽くせる
6. 対象者の安全に配慮できる
7. 実習施設の規模や役割を説明できる
8. 実習施設における作業療法士の役割を説明できる
9. 関連する多職種の役割と連携について説明できる
10. 積極的な姿勢で実習に取り組むことができる

《成績評価の方法》

実習指導者による4領域の臨床見学実習指導報告書による評価と、学院で実施する実習後セミナーを総合して学院が決定する。評定は「合」「否」の2段階で行う。

《学生の留意点》

見学時は目的意識、問題意識を持ち見学に臨むこと。初めての施設に伺うので、事前の準備を行い病院・施設で求められる基本的な言動、態度は身に着けてから見学に行くようにすること。

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における作業療法士が、その実務経験を活かした科目となっている。

《授業計画》

回	形式(教室)	担当者	テーマ	学習内容
1			臨床見学(精神領域)	施設の特徴及び作業療法士の役割を知る
2			臨床見学(精神領域)	施設の特徴及び作業療法士の役割を知る
3			臨床見学(身体領域)	施設の特徴及び作業療法士の役割を知る
4			臨床見学(身体領域)	施設の特徴及び作業療法士の役割を知る
5			臨床見学(発達領域)	施設の特徴及び作業療法士の役割を知る
6			臨床見学(発達領域)	施設の特徴及び作業療法士の役割を知る
7			臨床見学(高齢期領域)	施設の特徴及び作業療法士の役割を知る
8			臨床見学(高齢期領域)	施設の特徴及び作業療法士の役割を知る
9			臨床見学(高齢期領域)	施設の特徴及び作業療法士の役割を知る
10			臨床見学(高齢期領域)	施設の特徴及び作業療法士の役割を知る
11	講義・演習	柴田	実習後セミナー	臨床見学実習の発表と学びの共有
12				
13				
14				
15				

《専門分野 臨床実習》

科目名	臨床実習Ⅱ-A										
担当者氏名	並木 秀樹										
授業方法	実習	単位数	2	回数	-	時間数	90	開講年次	1	開講時期	後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	DP1 人を一人の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人										○
	DP2 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人										○
	DP3 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人										○
	DP4 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人										○

《一般教育目標(GIO)》
精神障害領域の作業療法が実施できるようになるために、精神科作業療法の実践過程を理解する。

《テキスト》
指定なし 関連科目の教科書

《参考図書》
実習地で紹介される文献
精神神経系の各授業教科書および資料

《目標行動(SBO)》
1. 職業人としての適切な態度や行動をとることができる。
2. 精神科領域の作業療法を実践するための観察・面接などの基本的な知識・技能について説明できる。
3. 精神科領域の作業療法場を観察し、対象者と参加場面を理解し作業療法内容を説明できる。

《学生の留意点》
受け身ではなく、自分から知ろう、学ぼうという姿勢を常に持ち続けて実習に臨んでください。
精神科領域の対象者と直接かかわれる貴重な経験です。実習施設対象者への感謝の気持ちを持って臨んでください。

《成績評価の方法》
指導者による成績評定と学院のセミナー評定を合算して総合的に成績を判定する。

《実務経験のある教員による科目》
当該分野における作業療法士として実務の経験を、作業療法実施という観点から実習内容に生かした科目としている。

《授業計画》

回	形式(教室)	担当者	テーマ	学習内容
1			オリエンテーション	実習施設の概要、作業療法部門についてのオリエンテーション
2			作業療法実践過程の経験	作業療法プログラムに参加し、対象者の観察、作業療法の実践場面の観察
3			作業療法実践過程の経験	作業療法プログラムに参加し、対象者の観察、作業療法の実践場面の観察
4			作業療法実践過程の経験	対象者について理解を深める。
5			作業療法実践過程の経験	対象者と適切な距離を意識したかかわり方を見学・模倣する。
6			作業療法実践過程の経験	対象者と適切な距離を意識したかかわり方を見学・模倣する。
7			作業療法実践過程の経験	精神科領域の作業療法の治療構造、作業活動の使い方を観察し理解する。
8			作業療法実践過程の経験	精神科領域の作業療法の治療構造、作業活動の使い方を観察し理解する。
9			作業療法実践過程の経験	記録の書き方を見学、模倣する。
10			まとめ	まとめとして、目標行動が達成できたかを確認する。
11			実習後セミナー	セミナーで実習の振り返り、報告ができる。
12				
13				
14				
15				